

SOCGER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

# SOCGER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



# vol.94

平成31年3月25日発行



## 2018年度 栃木県サッカー協会 表彰式

※写真①

2019年2月24日 ホテルニューイタヤ

## JFAレフェリーキャラバン

※写真②

2018年12月15日、16日 作新学院大学

## 第40回皇后杯全日本女子選手権大会 準々決勝

※写真③

## INAC神戸・鮫島彩 凱旋

2018年12月22日 栃木県グリーンスタジアム

FAIR PLAY PLEASE  フェアプレイを心がけましょう



# contents

<b>事務局より</b>	
2018年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者	3
公益社団法人栃木県サッカー協会ミッションファイル	4
2019年度 アクションプラン	5
第40回皇后杯全日本女子選手権大会、県グリーンスタジアムで準々決勝開催	13
<b>栃木サッカークラブ</b>	
今シーズンの栃木SC	14
<b>第1種委員会・社会人連盟</b>	
2019シーズンに向けて（栃木シティフットボールクラブ）	14
2019 シーズンに向けて（ヴェルフェ矢板）	15
第52回関東社会人サッカー大会を終えて	16
<b>第2種委員会・高校連盟</b>	
高校連盟より	17
平成30年度栃木県高等学校サッカー新人大会 結果	18
高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ 2018 関東	19
高円宮杯 TFA U-18サッカー 第14回ユースリーグ栃木2018	19
平成30年度 第97回全国高校サッカー選手権大会 栃木大会 結果	21
高校女子サッカー2018年度シーズンを終えて	22
平成30年度 栃木県高等学校女子サッカー新人大会	22
宇都宮フェスティバル	23
<b>第3種委員会・中学連盟</b>	
全国中学校サッカー大会視察報告 栃木県中体連サッカー専門部暑熱対策	23
<b>第4種委員会・少年連盟</b>	
第47回栃木県少年サッカー選手権大会	25
JFA 第42回全日本U-12サッカー選手権大会栃木県大会	25
JFA 第42回全日本U-12サッカー選手権大会	26
JA 全農杯 全国小学校サッカー大会 in 関東栃木県大会	26
<b>シニア委員会・連盟</b>	
第12回関東シニアO-40サッカー選手権大会	27
第12回関東シニアサッカー選手権大会（O-50）	28
JFA 第19回全日本O-60サッカー大会関東予選会	29
JFA 第13回O-70サッカーオープン大会関東予選会兼関東選手権大会	30
<b>キッズ委員会・連盟</b>	
両毛地区のキッズの活動報告	31
<b>フットサル委員会・連盟</b>	
選手たちが巣立ちの日	32
モランゴ栃木が「シティ」に	33
<b>女子委員会・連盟</b>	
女子サッカーの活性化を目指して カンファレンス初開催	33
<b>審判委員会</b>	
Jリーグを担当して	34
栃木のために	35
2級審判員として	36
2級審判員に昇格して	36
栃木県審判トレセン	38
クラブユース審判員として	39
シニアサッカー界における「風姿花伝書」	39
3級審判インストラクターとして	41
栃木県開催の第45回JFAレフェリーキャラバンに参加して	41
<b>技術強化委員会</b>	
ゴールキーパープロジェクトについて	43
<b>賛助会員・協賛</b>	
2018年度賛助会員ご芳名	44

## 2018年度公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者



- 1. 2018年度 (第46回) 太郎賞受賞者**
- 4種 星 慶次郎 ヴェルフエたかはら那須U-12  
 石 関 琉 三島FC  
 岩 崎 大 翔 FC VALON  
 手塚 柑 汰 栃木サッカークラブ ジュニア  
 泰 染 太 雅 栃木サッカークラブ ジュニア  
 谷 匠 祐 SAKURA FOOTBALL CLUB Jr  
 関 根 芽 玖美 FC がむしやら
- 3種 阿 野 真 拓 ヴェルディSS小山  
 西 崎 真 那須塩原市立西那須野中学校  
 大 平 卓 海 栃木サッカークラブ ジュニアユース
- 2種 白 井 陽 貴 矢板中央高等学校  
 大 塚 尋 斗 矢板中央高等学校  
 坂 本 昂 優 栃木サッカークラブ ユース
- 女子 猪 瀬 結 子 栃木サッカークラブ レディース  
 関 根 美 咲 栃木サッカークラブ レディース
- 2. 2018年度 (第31回) 森山賞受賞者**
- 堺 陽 二 栃木ウーヴァフットボールクラブ 監督  
 第54回全国社会人サッカー選手権大会 ベスト8  
 第52回関東サッカーリーグ1部 優勝
- 鈴木 正 則 足利御厨UNITED 監督  
 第52回関東社会人サッカー大会 第3位
- 上 野 哲 小山工業高等専門学校サッカー部 監督  
 第47回関東高等専門学校サッカー選手権大会 優勝
- 高 橋 健 二 矢板中央高等学校サッカー部 監督  
 高円宮杯JFAU-18サッカープリンスリーグ2018関東 優勝  
 第97回全国高校サッカー選手権大会 ベスト8
- 久保田 圭 一 栃木サッカークラブレディース 監督  
 第23回関東女子ユース (U-15) サッカー選手権大会 第3位
- 君 嶋 渡 紀子 矢板中央高等学校サッカー部 監督  
 JFA第5回全日本U-18フットサル選手権大会関東大会 第3位
- 3. 2018年度 (第36回) 協会長賞受賞者**
- 【団体】
- 栃木ウーヴァフットボールクラブ  
 第54回全国社会人サッカー選手権大会 ベスト8  
 第52回関東サッカーリーグ1部 優勝
- 足利御厨UNITED  
 第52回関東社会人サッカー大会 第3位
- 小山工業高等専門学校サッカー部  
 第47回関東高等専門学校サッカー選手権大会 優勝
- 矢板中央高等学校サッカー部  
 第97回全国高校サッカー選手権大会 ベスト8  
 高円宮杯JFAU-18サッカープリンスリーグ2018関東 優勝  
 JFA第5回全日本U-18フットサル選手権大会関東大会 第3位
- 栃木サッカークラブレディース  
 第23回関東女子ユース (U-15) サッカー選手権大会 第3位
- 【個人】
- 鈴 木 弘 永年にわたり本県少年サッカー連盟の役員として、連盟の発展に貢献された。
- 大 手 英 之 永年にわたり真岡市サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
- 4. 2018年度 特別功労賞**
- 【個人】
- 大 塚 尋 斗 U-19フットサル日本代表に選出された。

## ミッションファイル

### 公益社団法人 栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

### 公益社団法人

### 栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

## 公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

### 《10年後の達成目標 (TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 <2018年度>
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13~18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	サッカー選手登録 16,149人 フットサル登録 540人 審判員 5,636人 指導者 2,306人 計 24,631人 県民人口 1,952,120人 県民の 1.26%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として20名以上活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	日本代表 0人 女子日本代表 1人 Jリーガー 20人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	全国ランキング 第20位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が15面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 4面 ・矢板市 3面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 ・真岡市 1面 ・さくら市 1面 ・足利市 1面 計 18面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2019年度の  
TFA活動目標

- (1)アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2)サッカーファミリーの拡大(グラスルーツの普及促進)  
<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す>
- (3)各種別の本県代表チームの活躍<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4)茨城国体でベスト4以上を目指す
- (5)J2栃木SC・関東リーグ 栃木シティFC及びヴェルフェ矢板との連携・協力体制の確立
- (6)サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7)県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8)2022年栃木国体「総合優勝」に向けた5か年行動計画の推進
- (9)財政の健全化<新たな収入源の確保>

## 2019年度 アクションプラン

### 1. 第1種委員会：社会人連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内リーグチーム強化</li> <li>・各種大会の運営及び委員会への出席率の向上</li> <li>・Jチーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施</li> <li>・栃木国体に向け本大会連続出場への取り組み</li> <li>・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格</li> <li>・関東社会人大会(栃木県開催)の円滑な運営に向けた取り組み</li> <li>・トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み</li> <li>・登録チーム数を増やすための取り組み</li> <li>・登録チームを継続するための取り組み</li> <li>・公式記録作成者の育成</li> <li>・O-35カテゴリー新規事業への取り組み</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;                  事業及び委員会への出席率をUP(60%へUP)                  登録チーム数をUP(2020年度登録時に3チーム増やす)</p>
	<p>&lt;スローガン&gt; チーム社会人(1種)の取り組み</p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内大会の活性化</li> <li>・各委員会(総務・審判・技術・競技)の確立(適数人員)</li> <li>・Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化</li> <li>・栃木国体に向け役員の育成と質の向上を目標に大会運営を行う</li> <li>・MC資格保有役員は関東リーグマッチコミッショナーを1試合以上担当する。</li> <li>・新規チーム数を増やすための募集・広報活動</li> <li>・登録チーム継続のためのサポート活動</li> <li>・公式記録作成研修会の実施</li> <li>・O-35の新規大会の実施</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第53回関東社会人サッカー大会</li> <li>・国大関東ブロック大会</li> <li>・県内トーナメント大会</li> <li>・各委員会メンバーの適正化</li> <li>・J2・関東リーグとの連携・協力</li> </ul>

### 2. 第2種委員会：高校連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校サッカーの活性化(男女)</li> <li>・高校サッカー部員の増加(男女)</li> <li>・本県代表校の活躍(男女)</li> <li>・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;                  部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝</p>

	<スローガン> <b>サッカー環境の整備（気持ちよくサッカーができるように）</b>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理体制の充実</li> <li>・全国高校サッカー選手権大会栃木大会</li> <li>・審判員の充実</li> <li>・栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営</li> <li>・本県代表の関東・全国大会入賞</li> <li>・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審判研修会及び講習会の開催</li> <li>・高校連盟の試合途中経過・結果速報</li> <li>・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり</li> <li>・ユース審判員の育成及び活用</li> </ul>

### 3. 第3種委員会：中学連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技環境の充実</li> <li>・指導者の質の向上</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①U-15リーグに90%以上のチームの参加</li> <li>②公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上</li> <li>③M4による指導者講習会への参加率85%以上</li> </ul>
	<スローガン> <b>より良い育成環境を目指して</b>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編</li> <li>・指導者養成事業及び指導者研修</li> <li>・3種委員会の組織の充実</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-15リーグ （1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ）</li> <li>・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会</li> <li>・各地区での指導者講習会</li> </ul>

### 4. 第4種委員会：少年連盟

2019年度の活動目標	<p>【競技】①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地域】①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技術】①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②地区トレセン指導者の育成とレベルアップのための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携</p> <p>【審判】①研修会の充実 ②ユース審判員の発掘と育成 ③技術強化委員会との連携</p> <p>【広報】①正確な情報の迅速な提供</p> <p>【女子】①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと</p>
	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上 4種技術委員のB級取得者を増やす</p> <p>【審判】 4種委員会から3級インストラクターを2名以上輩出</p>
	<p>&lt;スローガン&gt; 【技術】 <b>プレーの質を追求しよう</b> 【審判】 <b>基本に忠実に</b> 【広報】 <b>正確・迅速</b></p>

<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<p><b>【競技】</b> ①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p><b>【地域】</b> ①トップリグ・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会（県大会申込書） イ 技術強化委員会（県トレセン） ウ 審判委員会（4級取得講習会） エ 広報委員会（地区大会結果の報告） オ 女子委員会（県トレセンへの推薦）</p> <p><b>【技術】</b> ①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセン活動への指導協力 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加 ・県技術委員のB級取得促進</p> <p><b>【審判】</b> ①3級審判員研修会の充実 ②3級インストラクターの育成・輩出 ③ユース審判員・若手審判員の発掘と育成</p> <p><b>【広報】</b> ①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報活動</p> <p><b>【女子】</b> ①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p><b>【競技】</b> ①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p><b>【地域】</b> ①地域委員会の定期的開催（年12回開催） ②トップリグ・地域リーグの運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化</p> <p><b>【技術】</b> ①地区トレセン活動の活性化 ・トレセンマッチデーから県トレセンへ推薦 ②県大会での優秀選手選出 ③関東トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、フットボール・フューチャー・プログラム等での他県の選手のレベル・戦術分析と本県選手のレベルアッププログラムの編纂</p> <p><b>【審判】</b> ①審判研修会の計画的な実施 ・ルール講習会（指導者・帯同審判員） ・実技指導者研修会（各地区3級審判員） ・3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者） ②異なるカテゴリーへの審判員等を積極的に派遣する。 ・県民体育大会（1種） ・高校サッカー選手権大会（2種） ・下野杯（3種） ③他種別との連携を図り、ユース審判員や若手審判員を各種大会で積極的に割り当てる。</p>

## 5. 女子委員会：女子連盟

<p>2019年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレセン制度の充実・強化</li> <li>・競技人口の拡大</li> <li>・指導者の育成</li> <li>・女性審判、ユース審判の育成</li> <li>・JFA普及コーディネーターの活用</li> </ul>
--------------------	---

	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラスルーツ2回</li> <li>・ワンデークリニック2回</li> <li>・審判トレセン2回</li> </ul>
	<p>&lt;スローガン&gt; <b>栃木からなでしこへ「未来へ繋げる」</b></p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-15トレセン活動の充実・強化 学年別(U-13/14/15)のトレーニングで個のレベルアップを図り、JFAエリートプログラムやナショナルトレセンに繋げる。</li> <li>・U-18トレセン活動の充実・強化 国体成年女子選抜チームとの連携</li> <li>・国体成年女子選抜チームの強化</li> <li>・国体少年女子選抜チーム(2022年)を見据えた取り組み U-12女子トレセンとの連携</li> <li>・普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。(例:JFAなでしこひろばの活用)</li> <li>・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレセン女子U-15/U-18</li> <li>・U-12女子トレセンとの連携</li> <li>・グラスルーツ</li> <li>・ガールズ・レディースフェスティバル</li> <li>・審判トレセン</li> </ul>

## 6. クラブユース連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東リーグへの進出(各年代別強化)</li> <li>・帯同審判の質の向上</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>関東大会でのベスト8以上</p>
	<p>&lt;スローガン&gt; <b>未来を担う選手たちと共に!</b> <i>(高めあい・競い合い・認め合う)</i></p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-15リーグを含めU-14の強化</li> <li>・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-15リーグ・U-13リーグ及びカップ戦</li> <li>・帯同審判の講習会</li> </ul>

## 7. シニア委員会：シニア連盟

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア連盟の組織化(各年代)</li> <li>・未登録チーム・選手の協会登録強化(各年代)</li> <li>・関東大会の大会運営</li> <li>・全国大会予選会の突破</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>各年代(Over40・Over50・Over60・Over70)の全国大会出場</p>
	<p>&lt;スローガン&gt; <b>各年代での関東大会を突破し全国大会出場</b></p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア連盟の組織の強化</li> <li>・シニアリーグの活性(各年代40、50、60)</li> <li>・JFA第9回O-70サッカーオープン大会関東予選の開催のための大会運営</li> <li>・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出</li> <li>・シニアサッカー選手権大会(O-40, O-50, O-60) 5月・8月9月</li> <li>・シニアサッカーリーグ(O-40, O-50, O-60) 4月~3月</li> <li>・JFA第9回O-70サッカーオープン大会関東予選の開催 11月</li> </ul>

## 8. 技術強化委員会

2019年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022栃木国体+10年を視野に入れた諸事業の検証・再実行</li> <li>・トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携</li> <li>・栃木TSG(テクニカルスタディグループ)データ活用</li> </ul>
	<p>&lt;数値目標&gt; 関東トレセン大会各種別Aクラス入り</p> <p>&lt;スローガン&gt; <b>全県一致</b></p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体強化策の具現化 成年男子：栃木トップクラブの連携のさらなる深化 女子：成年選抜チームの発足、栃木SCとの連携 少年選抜チーム作りに向けての具体的アクション</li> <li>少年男子：U14早生まれ及びU13県トレセンの強化</li> <li>・トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために）</li> <li>・各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内B級コースの解説</li> <li>・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・U-14トレセン海外遠征</li> <li>・U-14・13県トレセン強化策</li> <li>・地区トレセンの強化＝県内指導者の育成（情報の共有） カテゴリーを超えた連携</li> </ul>

## 9. フットサル委員会：フットサル連盟

2019年度の活動目標	<p>U-18、U-15年代の指導者がフットサルの重要性を認識してくれていることは感じられるが、この年代の選手はサッカー登録している選手がほとんどでサッカー競技の試合日程とフットサルの大会日程が重複しているために、関心を持ちながらも参加できない状況があることは残念である。この年代の委員長やサッカーの指導者との交流を深め、フットサルとサッカーの在り方等を協議していき、日程の調整など良い方向にもっていくことが重要となる。それが、本県のフットサルの普及にはつながるのではないかと考える。</p> <p>さらにフットサルの普及・振興のために、フットサルイベントを企画してフットサル未経験者や多くの方にフットサルに触れる機会を増やすための広報・普及活動も急務である、また、若い年代の技術の向上や試合の経験値をあげるためにクリニックの計画的実施し、若手の指導者の育成など、中長期的な課題として今後の本県フットサルをより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、フットサル委員会・連盟事業の多岐にわたるようになってきていることから、連盟を組織の充実を図る時期にとなっている。</p> <p>大会会場が体育館で、他団体との競合で施設の確保が困難であるが選手に良い環境でプレーしてもらいたいため、会場の確保に努力とともに県協会に働きかけをして、協会の持つ体育館設置への働きかけをしていきたい。</p>
	<p>&lt;数値目標&gt; 男女の登録選手数500名を目標に増加させる</p> <p>&lt;スローガン&gt; <b>栃木のフットサルの振興と競技力の向上</b></p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①男女栃木県リーグの選手数及びチーム数増加と安定稼働</li> <li>②各年代におけるフットサル大会の運営と選手の発掘</li> <li>③U-23年代以下の育成・強化</li> <li>④普及事業の促進</li> <li>⑤県内におけるフットサルのPR</li> <li>⑥審判員の育成</li> <li>⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実</li> </ol>

<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①栃木県フットサルリーグ</li> <li>②全日本フットサル選手権栃木大会</li> <li>③全国選抜フットサル大会</li> <li>④栃木県女子フットサルリーグ</li> <li>⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選</li> <li>⑥全国女子選抜フットサル大会</li> <li>⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会</li> <li>⑧各種普及イベントの充実 ファミリーフットサル オープンフットサル大会</li> </ul>
-----------------------------	--

## 10. 審判委員会

<p>2019年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①JFA、関東協会(KFA)ともに審判育成・審判指導者育成のためシステムを改善・再構築している。その波に乗るだけでも大変であるが、審判委員会の委員の協力があり、各方面で質を高めている。来年度は委員改選の年でも有り、今年度の反省を活かし、若干の組織の改正を考えている。</li> <li>②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施している。講義形式が多く、実技研修(プラクティカルトレーニング)がなかなか実施できないのは残念であるが、3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用できはじめた。指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。</li> <li>③ユース審判員のレフェリースクールも軌道に乗り、3級ユースの増員、2級ユースの誕生と話題は明るい。4級審判員も急増しており、今後はその活躍の場やフォローアップの機会を確保しなくてはならない。女子についてはJFA審判トレセンを実施しているが、なかなか強化できないのが歯がゆい。ユース育成については、予算面も見直さなくてはならない。</li> <li>④トップレフリーセミナーⅡは原崇氏の1級合格を機会に発展的に解散する。この5年間で5名の1級審判員が誕生し大きな実績を残せたと思う。今後は1級にチャレンジできそうな審判員は強化審判員研修会を実施する。また、若手を中心にレフェリアカデミーを相楽氏にチーフとなってもらい実施していく。</li> <li>⑤インストラクタートレセンにインストラクターを参加させサポートした。上級の指導者を育成する。</li> <li>⑥作新大学を中心に大学生向けの講習会を実施し、即戦力の審判員育成を図り始めた。今後も継続する。</li> <li>⑦シニア、フットサルにおいても限られた人材・予算であるが、改善を目指し、各大会・講習会をスムーズに運営する。</li> <li>⑧IT技術を導入し情報の共有を図り、審判員の研修に役立てる。</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①審判員登録数を1級：8名、2級：70名(関東で実働40名)、3級：500名(2級受検候補5名)、女子2級：4名 3級：6名</li> <li>②4級：4500名、フットサル：600名、女子審判員：180名を目標に育成する。(中期、長期)</li> </ul> <p>&lt;スローガン&gt; <i>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM</i> (審判仲間の夢への挑戦)</p>
<p>2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①種別との連携 他種別との連携により、1種大会の審判員を増やすとともに、他種別を経験することで審判としての幅を広げる。(2種)</li> <li>①4級ユース審判員の増大・更新の定着を図る。</li> <li>②ユース審判員の育成を充実させる。</li> <li>③若手顧問の強化・育成を図る。(3種)</li> <li>①審判研修会の充実 ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会(年1回以上)の実施 ・インストラクターの活用</li> <li>②若手審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の拡大(2級審判員・3級審判員の増員)</li> </ul>

	<p>①研修会の充実を図り、3級審判員の増員を図る。          ②第4種から3級インストラクターを2名以上輩出する。          ③ユース審判員の発掘と育成に努める。          (女子)          ①3級昇格者2名その為に4級新規審判員取得者を増やす。          ②関東派遣者1名育成する。          ③チーム帯同審判員の研修会実施。          (シニア)          ①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。          ②シニアの各カテゴリー(0-40から0-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。          (クラブ)          ①2級審判員1名を輩出させる。          ②2級を目指す3級審判員を指導・育成する。          ③3級を目指す4級審判員を指導・育成する。          ④チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。          ⑤3級インストラクター候補者を指導・育成する。(新規)          (フットサル)          ①引き続き女性審判員の育成と若手審判員の確保を行う。          ②上級昇格希望者を育て支援を行う。          (指導・育成・インストラクター)          ①審判委員会組織の見直し、指導育成部を強化と育成に分けて活動の分担化を明確に図る。強化部門として強化審判研修会やトレセン、育成部門としてレフェリーアカデミー、3級昇格審査、フォローアップ研修、登録更新、取得講習会、レフェリースクール等を分担していく。          ②トレセン、リーグ戦、輪番の大会等審判実技研修の機会を設定し、あわせてインストラクターの派遣も効果的に継続性を持たせて実施する。          ③2級、3級審判員及びSI3の増員。          ④ユース審判員、女子審判員、及び上級を目指す若手審判員の発掘方法の検討、具体的な育成案の作成。          (競技部)          ①kickoffサイトの有効利用          インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。          ②各種別の連携強化          種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。          ③在野の審判員の発掘          級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。          ここで指導育成した審判員を各種別で活躍できるような仕組みを作る。(4級、3級のスキルアップ)          県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>(1種)          ①1種大会(県リーグ、知事杯等)やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。          ②派遣審判員を対象にした1種主催の研修会を開催する。          ③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。          ④サッカーから離れた方策でのイベントを開催することで審判員のコミュニケーションをより強化する。その際に、他種別にも声をかけて連携にも繋げる。          (2種)          ①ユース審判員          ・ユース審判員の環境整備を行う。(4級審判員資格取得料金と更新料金を1500円に変更・レフェリースクール生の保険加入)          ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし4級取得者が継続のために更新も行う環境を作る。          ・2022年栃木国体に向けて、レフェリースクール生を2級審判員や3級審判員に昇級させる。          ・全日本少年サッカー大会で準決勝・決勝を担当できるユース審判員を育成する。          ②顧問          ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当して指導する。          ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。</p>

	<p>(3種)</p> <p>①研修会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月ー中学校県新大会最終日</li> <li>・12月ー下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合</li> <li>・3月ー東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力 (多種別との交流を含めて)</li> <li>・年1回以上の地区別研修会の実施(インストラクター派遣)</li> </ul> <p>②審判員の発掘と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多種別の審判員との交流を推進する。 (3種→2種・1種へ) (4種→3種へ)</li> <li>・地区担当者との連携強化</li> </ul> <p>(4種)</p> <p>①審判研修会を計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技指導者研修会(各地区3級審判員)</li> <li>・3級審判員研修会(3級審判員のうち希望者)</li> <li>・3級審判インストラクターの研修会</li> </ul> <p>②他種別へ審判員を積極的に派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県社会人リーグ、知事杯など(1種)</li> <li>・U-18リーグ、高校サッカー選手権大会(2種)</li> <li>・下野杯(3種)</li> </ul> <p>③他種別との連携を図り、ユース審判員を各種大会で積極的に割当する。</p> <p>(女子)</p> <p>①JFA女子トレセンがなくなる為研修頻度は落とさず予算の確保をお願いする。</p> <p>②1月帯同審判員講習会5月ユース審判員講習会11月ユース審判員講習会県リーグ 時毎回実施訓練研修会3級取得者向けルール講習会</p> <p>③女子公式戦決勝4名女子で実施</p> <p>(シニア)</p> <p>①審判の取得・更新を通知で啓発する。</p> <p>(クラブ)</p> <p>①チーム帯同審判員の研修会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県最終日</li> <li>・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会準々決勝</li> </ul> <p>②2級を目指す3級審判員及び3級インストラクター候補者の指導・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県U15・13リーグ</li> <li>・日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県</li> <li>・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会栃木県大会</li> <li>・3種リーグチャンピオンシップ</li> <li>・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会</li> </ul> <p>(フットサル)</p> <p>①上位のカテゴリーの試合や研修会で知り得た情報を県リーグを担当する審判を中心に共有する(随時) U-12の審判講習会を引き続き開催する。(1回)</p> <p>②各種講習会については、効率的で効果的な運営を検討し確実に実施する。</p> <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <p>①種別、級のカテゴリー枠を越えた研修会事業の実施。</p> <p>②審判トレセンを活用したインストラクターの指導スキルアップ研修会の実施。</p> <p>③インストラクタートレセンへ向けた準備と取り組みを行なう。</p>
--	--

## 11. キッズ委員会

2019年度の活動目標	<p>&lt;全体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー未経験者の参加者数の増加</li> </ul> <p>&lt;巡回指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政との連携(キッズ委員会以外からのアプローチも模索)</li> <li>・指導先の拡大と受益者負担への働きかけ</li> <li>・TOYATAとの協働による指導内容の充実</li> <li>・巡回指導スタッフの発掘</li> </ul> <p>&lt;フェスティバル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区フェスティバルの内容の充実(チーム対抗戦だけにしない)</li> <li>・JFAフェスティバルの回数増加</li> <li>・他種別(特に4種と技術委員会)との連携での開催</li> <li>・サッカー未経験者の参加増大(未経験者が来て初めて普及)</li> </ul>
-------------	--

	<p>&lt;キッズリーダー講習会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・短大・専門学校等、教育者育成機関での開催</li> <li>・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち延べ23,000人との交流</li> <li>・サッカー未経験者延べ500人の参加</li> <li>・キッズリーダー講習会の開催（15コース、300名）</li> <li>・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催（2回）</li> </ul>
	<p>&lt;スローガン&gt; ・キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・栃木をキッズ王国に</p>
2019年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等(*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回指導 380回（実質90園・小学校40校）</li> <li>・JFAフェスティバル、および各地区フェスティバルでの未経験者の参加へのアプローチと参加者の増加（目標500名）</li> <li>・各地区フェスティバルの年2回以上開催</li> <li>・フェスティバルの内容の充実（チームの対抗戦だけにならない、研修会を兼ねる、グラスルーツ方式）</li> <li>・他種別との交流事業の充実</li> </ul>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JFAキッズサッカーフェスティバル</li> <li>・JFAグラスルーツフェスティバル</li> <li>・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導</li> <li>・キッズリーダー養成講習会</li> <li>・地区主催キッズサッカーフェスティバル</li> <li>・栃木SC・栃木シティーFC・ヴェルフェFC等の巡回指導</li> <li>・キッズ研修会</li> </ul>

## 第40回皇后杯全日本女子選手権大会 県グリーンスタジアムで準々決勝開催

### 県サッカー協会事務局

第40回皇后杯全日本女子選手権大会は12月22日、県グリーンスタジアムで、INAC神戸レオネッサ（なでしこ1部）対アルビレックス新潟レディース（同）、ジェフユナイテッド市原・千葉レディース（同）対ノジマステラ神奈川相模原（同）の準々決勝2試合が行われた。

第1試合は、宇都宮市出身の日本代表DF鮫島彩が所属するINAC神戸レオネッサがアルビレックス新潟レディースと対戦し、2-1で勝利した。第2試合はジェフユナイテッド市原・千葉レディースが1-0でノジマステラ神奈川相模原を下した。

2大会ぶりの優勝を目指すINAC神戸の宇都宮市出身、DF鮫島彩は先発フル出場し、攻守に存在感を発揮した。中学生以来という県グリーンスタジアムでのゲームであったが、終始安定したプレーで2大会ぶりの4強進出に貢献した。

#### ▽準々決勝・第1試合

INAC神戸

2（1-0，1-1）1

アルビレックス新潟

#### ▽準々決勝・第2試合

ジェフユナイテッド市原・千葉

1（1-0，0-0）0

ノジマステラ神奈川相模原



鮫島彩が所属するINAC神戸レオネッサ

## 栃木SC

## 今シーズンの栃木SC

今シーズンより栃木SCの監督を務めさせていただくことになりました田坂和昭です。

今まで対戦していたチームの監督として栃木に来ましたが、始動してみて実際に生で見て感じた部分が非常に大きいなと思います。今まで対戦してきた選手のプレースタイルもわかってきましたが、実際に自分の目で見て可能性を感じる選手が多くいますし、また新たに着た選手も個性があり、協調性がある選手が多く来てくれたのでそういった面では、シーズンが始まって楽しみながらの日々を過ごさせてもらっています。

選手たちには言っていますが、サッカー選手としてサッカーを仕事にしているがそれをつかさどっているのは常に心（メンタル）なので、そこがいかにか充実するかと。人間は色々なことを考える生き物ですし、過去・未来色々なことに心が踊らされることもあれば、不安になることもある。そういったところでメンタル、気持ちの重要性は伝えていきます。

2月24日の開幕戦では、笑えるくらい緊張が見られて、まさかここまでとは思えるくらい緊張をしていた部分もありましたが、これも逆にいい経験だと思っています。守備の面では、落ち着いて押し込まれる時間も絶えたり、攻撃の面ではなかなかいい形はでませんでした。チームが成長する家庭の段階で、そういった意味ではスタートしてみて、公式戦ではインテンシティが高いので、そういったところも選手自身も感じながら成長して行って、チームとしても試合をするごとに成長していければと思います。そういった意味では、これから先も楽しみです。

チームは生き物なので、色々なことを経験しながら成長していけると思いますし、終盤にかけてはJ2はプレーオフがあり順位争いもし烈になってくると思いますので、そこに向けても一試合一試合を大事にしていきたいと思いますし、一試合一試合で出した課題をプラスαに変えていかなければならない。終盤には、今よりも成長したチームになっていければと思います。

指導というのは良くいう“コーチング”というのは難しいと思いますし、カテゴリーによって様々なことが出てくると思いますが、同じ栃木県のサッカーファミリーとして栃木県で同じ立場にい

る人間として皆さんの指導にとってプラスになれば我々が試合で勝つことによって選手がプロの選手たちのプレーを見てくれたり、子供たちがプロの選手の真似をしてくれたりとか、そういったところで指導者の人たちにもプラスの材料を与えられるようにしたいなと持っています。そういった意味で、同じ県内で活動している一員という思いで戦います野で、皆さんで栃木県のサッカーを発展させるために頑張っていきましょう。宜しくお願い致します。



## 社会人連盟

## 2019シーズンに向けて

栃木シティフットボールクラブ  
阿部 秀彦

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市及び栃木県南地域のみなさまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨シーズンは、関東リーグ降格から1年でのJFL復帰を目標に掲げ、『本気力（マヂカラ）』をスローガンに皆様の応援のおかげさまを持ちまして、「関東リーグ優勝」を果たすことが出来ましたが、「世界一過酷」と言われる全国地域サッカーチャンピオンズリーグでは、1次リーグ敗退と1年でのJFL復帰という目標を達成する事が出来ませんでした。

今シーズンこそは必ず「JFL復帰」を果たし、「Jリーグ昇格」に向けてより一層邁進してまいります。

JFL昇格に向け、鄭 容臺監督、新井 貴之ヘッドコーチを招き入れスタッフ陣の体制も変更しました。選手の入替えもありましたが、既存の選手と新たな選手との特徴を生かして、今年も、常に

自分たちがゲームの主導権を握り攻守両面で相手を圧倒するゲームを目指します。選手全員の意識を高め、勝負にこだわり最後まで全力を尽くし、今年も挑戦者として、応援して下さる皆様に感動を与えるサッカーをお見せします。

更に今シーズンは、地元出身のプロ選手を排出するためにユース、ジュニアユースを立上げ、トップチームに繋がる指導に力を入れて参ります。また、多くの子供たちにサッカーの楽しさを伝える為に県南各地でスクール活動を行ってまいります。

栃木市を中心とし、小山市、佐野市、足利市、野木町、壬生町の4市2町の栃木県南地域をホームタウンとして、地域の皆様にご支援を受けながら、Jリーグ入りを視野に入れてスピード感を持ってクラブ、チーム強化を進めて参ります。

また、今年も地域の方への恩返しとしても、地域のイベントへの参加や施設への訪問やサッカー教室だけでなく、キャラバンや「夢の教室」で幼稚園や小学校を訪問するなど、地域の方々とのふれあいの機会を増やし、絆を強固にしながらサッカーを通して栃木県南地域を活性化していきたいと思っております。

最後になりましたが、今シーズンより、「栃木ウーヴァFC」という名称を変更する運びとなり、新チーム名を「栃木シティフットボールクラブ」とし、エンブレム・ロゴも一新致しました。チーム名は変わりましたが、これまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられようなサッカーを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。



## 2019シーズンに向けて

ヴェルフェ矢板 山本

日頃より栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市のみなさまをはじめ多大なるご支援ご協力ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。

いよいよ4月に当クラブが整備運営を行うとちぎフットボールセンターが矢板駅東口にオープンいたします。施設整備にあたり、矢板市のクラウドファンディング型ふるさと納税にご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。また、そのほかにも多くの方々のご協力があり、施設整備が実現いたしました。本当にありがとうございます。この人工芝フルピッチ2面のグラウンドでは、各種別の大会が開催されることとなります。矢板駅から徒歩圏内でもあるこの場所に多くの方が集まることで賑わいを創出し、サッカーのまち矢板として、矢板を、そして栃木のサッカーをより盛り上げていけるよう努めていきたいと思っております。また、利用者のみなさまにとっても、利用しやすい、利用したくなる施設にしていきたいと思っております。矢板市にとっても、栃木県のサッカーにとっても、重要な役割を果たすことになるこの施設をしっかりと責任をもって運営していきたいと思っております。

そして、今季より「ヴェルフェたかはら那須」はチーム名を「ヴェルフェ矢板」と改称いたしました。フットボールセンターを拠点に新しい人の流れを作り、矢板市を中心に栃木県北地域に貢献していくことで、より地域に根差し、地域とともに歩み、愛されるチームをめざします。

昨季トップチームは1部を9位で終え、関東2部で戦います。昨季はみなさまのご期待に応えることができず大変申し訳ない結果となってしまいましたが、今季は1年での1部復帰をめざします。そして、今季より、奥野誠一郎氏がトップチームの監督に就任いたしました。奥野氏は選手として横浜フリューゲルス、大宮アルディージャで活躍し、現役引退後は大宮アルディージャで指導者として活躍されてきました。奥野監督新体制の下、1年での1部復帰を果たせるよう戦ってまいります。

また、今季のホームゲームは全試合、とちぎフットボールセンターにて開催いたします。多くの方が観に来やすいまちの中心で、結果だけでなく、内容にもこだわり、観に来ていただいた方に何か

を感じ取っていただけるような試合をしていきたいと思ひます。この文章をご覧のみなさまには少しでもヴェルフェ矢板の結果を気にしていただけますと幸いです。

今季は上述のようにフットボールセンターの開設、チーム名改称、関東2部からのスタートとクラブとして大きな転機を迎えます。みなさまには今後も変わらぬご支援ご協力、ご声援を賜れるよう精進してまいります。クラブとしてわれわれのできることで栃木県のサッカーに貢献していきたいと思ひますので、今後もヴェルフェ矢板を何卒よろしくお願ひいたします。



## 第52回関東社会人サッカー大会を終えて

足利御厨UNITED  
代表 久保 康弘

日頃より、栃木県サッカー協会の皆様、リーグ運営に携わる皆様をはじめ、日々私共と関わっていただいているすべての方々に、多大なるサポートをいただいていることに心より感謝申し上げます。

思い返せば昨年の年明け後、チームとして「関東大会出場」という目標を定めてから、日々のトレーニングや試合をこなしていく中で、チームとしての一体感や充実感を得ながら過ごすことのできた1年だったと感じております。昨シーズン、県1部リーグ7位となり、初めて2部リーグチームとの入れ替え戦に臨み、辛うじて1部残留を決めることができました。そんな状況から新たなシーズンを迎えるにあたり、チームとして重要視し始めたのが、「短い時間でも同じ時間を過ごす」ことでした。練習は週2回、市内のフットサルコートで夜9時か10時からの1時間のみ。これが我々のチームの選手たちが一番集まれる時間帯であり、

それぞれのメンバーが試合や練習で顔を合わせる中で決めていった部分でした。結果的に、時間は短くてもお互いのプレーを知り、合わせるために考え、話し合いを重ねていくことにより、シーズンが進むにつれ互いの理解度、チームとしての一体感が高まっていったものと考えています。

リーグ最終戦。ここで引き分け以上の結果を残せれば、目標であった関東大会出場を果たすことができる重要な試合でした。試合は後半に入り先に失点をしてしまう厳しい展開となりましたが、正にチーム全体の執念で1点を返し、同点で終了。関東大会出場を決めることができました。

チームとして5年ぶり、5度目の関東大会。これまで1勝はおろか、1得点すらあげたことのないチームですが、自分たちの力で勝ち取った舞台を「楽しもう」とするエネルギーに溢れていたように思ひます。

初戦は茨城県代表の鹿島さわやかFC。互いに決定的なチャンスを何度か迎えながらも得点できず、拮抗した試合となりました。後半、こちらがPKを獲得したものの失敗し、そのまま試合終了。PK戦となってしまいましたが、チーム全体として持っていた「楽しもう」という雰囲気が功を奏したのか、見事に勝利することができました。

翌日に行われた2回戦。相手はTokyo International Univercity (TIU、東京国際大学、埼玉1位)。普段、連日で試合をすることなどほぼない我々は、メンバー全員が満身創痍。ウォーミングアップをすることすら辛い状況の選手もいました。天気は雨で肌寒く、コンディションとしても非常に厳しい状況でした。しかし、そんな状況すら「楽しもう」としてしまふチームは、スピード・フィジカルで相手に劣っていても、先制点を与えてしまっても決して諦めることなく、後半、右サイドで獲得したFKから、関東大会初得点を奪い、またしてもPK戦に持ち込みました。

ベンチ、キッカー、キーパー、順番待ちの選手、全ての選手たちが全くと言っていいほど気負うことなく、置かれた状況を楽しんでいました。キーパーが一度はじいたボールが回転がかかってゴールに入ったりする、普通ではあり得ないような展開もありつつ、またしても勝利。奇跡の準決勝進出を果たすことができました。

あと1勝すれば、正直に言えば考えてもいなかった「関東2部リーグへの昇格」という偉業を果たすことができるかもしれない……。しかし、この2連戦の代償は大きく、キーパーは1戦目で足を負傷し歩くのもやっと、センターバックの1人

は2戦目で相手の頭と接触し、歯が折れる重症。2週間後の準決勝に間に合うのかどうか不安なチーム状況となりました。

迎えた準決勝。相手は東邦チタニウム（神奈川2位）。2回戦で今大会最も注目されていた南葛SCを倒して勝ち上がってきたチームです。しかも会場は味の素フィールド西が丘の素晴らしい天然芝のグラウンド。負傷した選手たちも何とか間に合い、良い状態で試合を迎えることができました。相手の出足の良さ、スピード、フィジカルに押し込まれる時間が多いものの、シンプルに前へボールを運ぶことにより、こちらでも何度かチャンスを作ることができました。しかし、試合終盤、一瞬のスキをつかれ得点を許し、残念ながら勝つことはできませんでした。

シーズン当初に掲げた「関東大会出場」という目標を達成し、関東大会そのものでは、「勝つ」よりも「楽しむ」というメンタルをチームとして持ち続け、結果として、それがベスト4という素晴らしい結果へと結びついていったこの過程は、本当に奇跡としか言いようがないような体験でした。

関東大会進出決定後、様々なサポート・励ましの言葉をいただき、大会開催中は、東京開催にも関わらず、現地まで足を運んでいただきました県社会人サッカー連盟の皆様をはじめ、温かいご声援を賜りました皆様にあらためて感謝申し上げます。

新たなシーズンを迎えようとしておりますが、例年同様、大小様々な変化のあるシーズンになっていく予感がしております。今年も関東社会人サッカー大会が栃木開催ということもありますので、ぜひ再びその舞台を戦いたいと考えております。ただ、今回改めて感じることでできた、社会人サッカーというものを「楽しむ」こと、その中で社会人としての「成長」を遂げていくことを何よりも大事にして、新たなシーズン・大会を戦っていきたいと考えております。



## 高校連盟

### 高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長  
小田林 宏至



現在、高校連盟は62校が県高体連サッカー専門部に所属し活動しています。

10月14日から11月10日にかけて開催された第95回全国高校サッカー選手権大会栃木大会2次予選は、プリンスリーグ関東に参加している矢板中央高校とインターハイ予選の上位8校及びU-18リーグ1部に所属する高校1校の計10校が推薦出場となり、8月に実施した1次予選を勝ち抜いた14校と併せ、計24校が熱戦を繰り広げました。

準決勝第1試合は、第1シードの矢板中央高校と宇短大附属高校が対戦しました。試合は矢板中央高校が1対0で勝利しました。続く第2試合は、佐野日大高校と足利大附属高校が対戦し、佐野日大高校が4対0で勝利しました。

決勝戦は、矢板中央高校が佐野日大高校を2対0で下し、優勝しました。同校は、2年連続9回目の本大会出場を決めました。

矢板中央高校は本大会において、2回戦から登場、宮崎県代表の日章学園高校に2対1、3回戦島根県代表立正大湊南高校に1対0と接戦をものにし、準々決勝に進出しました。

準々決勝では、優勝した青森県代表の青森山田高校と対戦し、前半に先制するも、逆転され、1対2で敗れてしまいました。しかし、敗れはしたものの、昨年の3位には及ばなかったものの、ベスト8という素晴らしい結果を残してくれました。

矢板中央高校はプリンスリーグ関東においても快進撃を続けました。

全国でもレベルの高い関東プリンスリーグで、開幕から無敗で首位を独走し、最終節で敗れはしたものの、堂々たる優勝を飾りました。

続くプレミアリーグ参入戦では、島根県代表の立正大淞南高校に1対0と勝利し、昇格決定戦に駒を進めました。

昇格決定戦では、熊本県代表の大津高校と対戦し1対3で敗れ、残念ながらユース年代における最高峰の戦いの場であるプレミアリーグ昇格は叶いませんでしたが、堂々たる戦いぶりでした。

来年こそ是非、プレミアリーグ昇格を果たして欲しいと願います。

本年度最後の大会となる新人大会は、例年の降雪の影響は無く、予定通り日程を消化することが

できました。

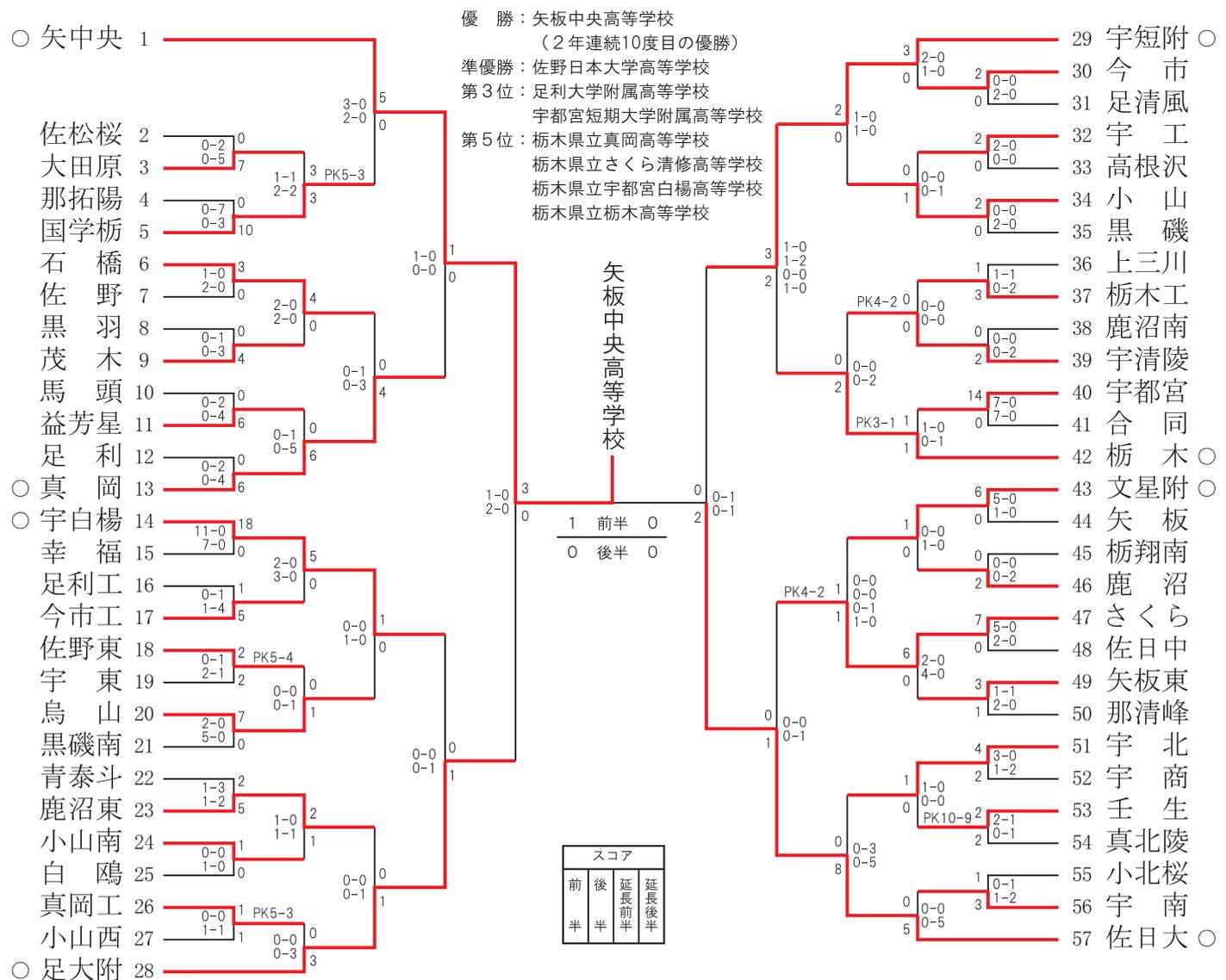
準決勝で足利大附属高校を破った矢板中央高校と宇短大附属高校を破った佐野日大高校で決勝戦を戦いました。

決勝戦は矢板中央高校が1対0で勝利し、2年連続10度目の優勝を飾りました。

最後に、県内で年間をとおして実施しているU-18リーグにおいては、年々組織及び運営が整備されてきています。複数チームの参加も当たり前となり、試合数が確保され、多くの選手たちが公式戦を経験することができるようになりました。同時に試合日程の過密化や選手および顧問の先生方への負担の増加、各学校の行事や試験との関係等課題も多いのが現状です。

今後次年度に向け、よりよいサッカー環境を整えるべく、取り組んでいきたいと思ひます。

## 平成30年度栃木県高等学校サッカー新人大会 結果



## 高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ2018 関東

順位	チーム名	勝ち点	
1位	矢板中央高校	41	(栃木)
2位	横浜F・マリノスユース	29	(神奈川)
3位	大宮アルディージャユース	28	(埼玉)プレミアリーグ2019昇格
4位	大宮育英高校	28	(群馬)
5位	東京ヴェルディユース	23	(東京)
6位	川崎フロンターレU-18	22	(神奈川)
7位	桐生第一高校	22	(群馬)
8位	三菱養和SCユース	19	(東京)
9位	桐光学園高校	19	(神奈川)
10位	山梨学院高校	18	(山梨)県リーグ降格

詳しくは、日本サッカー協会および関東サッカー協会HPをご確認ください。

## 高円宮杯 TFA U-18サッカー 第14回ユースリーグ栃木2018

### 「1部」

順位	チーム名	勝ち点	(来季)
1位	栃木SCユース	48	
2位	佐野日本大学高校	44	
3位	矢板中央高校B	36	
4位	真岡高校	28	
5位	宇都宮短期大学附属高校	23	
6位	足利大学附属高校	21	
7位	國學院大學栃木高校	16※1	
8位	文星芸術大学附属高校	16※1	2部降格
9位	小山南高校	15	2部降格
10位	白鷗大学足利高校	9	2部降格

### 「2部グループA」

順位	チーム名	勝ち点	(来季)
1位	矢板中央高校C	47	
2位	真岡高校B	35	
3位	大田原高校	33	1部昇格
4位	栃木高校	30	1部昇格※2
5位	さくら清修高校	28	
6位	宇都宮高校	26	
7位	宇都宮短期大学附属高校B	25	
8位	足利大学附属高校B	16	3部降格
9位	真岡工業高校	11	3部降格
10位	佐野東高校	3	3部降格

### 「2部グループB」

順位	チーム名	勝ち点	(来季)
1位	佐野日本大学高校B	46	
2位	宇都宮白楊高校	43	1部昇格
3位	小山西高校	31	
4位	烏山高校	28	
5位	栃木SCユースB	27	
6位	小山高校	24	
7位	宇都宮工業高校	19	
8位	國學院大學栃木高校B	16	3部降格
9位	宇都宮北高校	12	3部降格
10位	鹿沼東高校	6	3部降格

### 「3部グループa」

順位	チーム名	勝ち点	(来季)
1位	宇都宮白楊高校C	38	
2位	矢板東高校	34	2部昇格
3位	宇都宮短期大学附属高校D	31	
4位	黒磯高校	29	
5位	那須拓陽高校	24	
6位	真岡工業高校B	22	
7位	宇都宮工業高校B	15	
8位	高根沢高校	13	
9位	幸福の科学高校	3	

「3部グループb」

順位	チーム名	勝ち点	〈来季〉
1位	真岡高校D	40	2部昇格
2位	矢板中央高校D	39	
3位	黒磯南高校	28	
4位	矢板高校	27	
5位	さくら清修高校B	26	
6位	那須清峰高校	22	
7位	大田原高校B	20	
8位	馬頭高校	4	
9位	黒羽高校	1	

「3部グループc」

順位	チーム名	勝ち点	〈来季〉
1位	宇都宮白楊高校B	45	2部昇格
2位	鹿沼高校	32	
3位	宇都宮短期大学附属高校C	31	
4位	石橋高校	30	
5位	宇都宮東高校	24	
6位	宇都宮高校B	22	
7位	宇都宮南高校	17	
8位	宇都宮商業高校	9	
9位	上三川高校	1	

「3部グループd」

順位	チーム名	勝ち点	〈来季〉
1位	真岡高校C	51	2部昇格
2位	文星芸術大学附属高校B	38	
3位	益子芳星高校	34	
4位	作新学院高校	25	
5位	宇都宮清陵高校	25	
6位	茂木高校	24	
7位	今市高校	23	
8位	小山南高校C	13※1	
9位	真岡北陵高校	13※1	
10位	今市工業高校	11	

「3部グループe」

順位	チーム名	勝ち点	〈来季〉
1位	佐野日本大学高校C	54	2部昇格
2位	栃木工業高校	38	
3位	足利清風高校	34	
4位	小山高校B	31	
5位	小山西高校B	26※1	
6位	青藍泰斗高校	26※1	
7位	足利大学附属高校C	23※1	
8位	壬生高校	23※1	
9位	足利南高校	9	
10位	佐野日本大学中等教育校	0	

「3部グループf」

順位	チーム名	勝ち点	〈来季〉
1位	小山南高校B	45	2部昇格
2位	佐野松桜高校	43	
3位	足利工業高校	41	
4位	栃木高校B	34	
5位	白鷗大学足利高校B	32	
6位	足利高校	25	
7位	佐野高校	12※1	
8位	小山北桜高校	12※1	
9位	栃木工業B	8	
10位	栃木翔南高校	7	

※1 勝ち点と同じ場合は、得失点差により順位を決定しています。

※2 1部リーグ参入戦は下記の通り実施された結果、栃木高校が昇格いたします。

〈1部リーグ参入戦 結果〉

栃木高校 (2部グループA 第4位)	1 ( $\begin{matrix} 1-0 \\ 0-0 \end{matrix} $ ) 0	小山西高校 (2部グループB 第3位)
-----------------------	---	------------------------

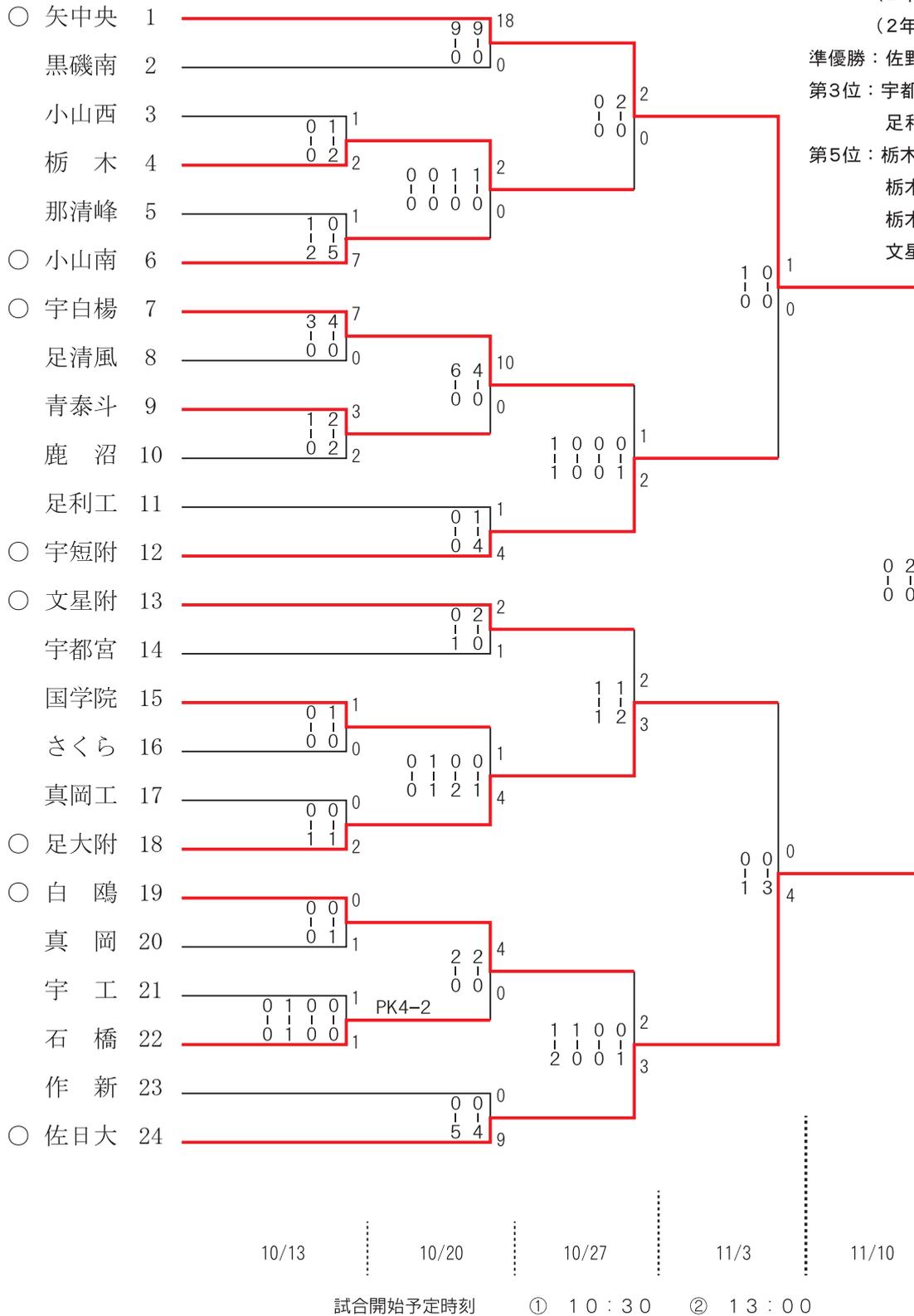
期 日： 2018年12月26日  
 会 場： 栃木市総合運動公園 陸上競技場  
 キックオフ： 10:45～  
 競技時間： 80分

# 平成30年度 第97回全国高校サッカー選手権大会 栃木大会 結果

平成30年10月13・20・27日 11月3・10日

大会結果

- 優勝：矢板中央高等学校  
(2年連続9度目の優勝)  
(2年連続9度目の全国大会出場)
- 準優勝：佐野日本大学高等学校
- 第3位：宇都宮短期大学附属高等学校  
足利大学附属高等学校
- 第5位：栃木県立栃木高等学校  
栃木県立真岡高等学校  
栃木県立宇都宮白楊高等学校  
文星芸術大学附属高等学校



矢板中央高等学校

スコア			
前	後	延長	延長
半	半	前半	後半

## 高校女子サッカー-2018年度シーズンを終えて

栃高体連サッカー専門部 女子委員会副委員長 増田 能人

高校女子サッカーは1月～2月にかけて新人戦が行われ、3月末までU-18リーグの試合も残っておりますが、2018年度シーズンもほぼ全ての大会を無事に終えることができます。これも日頃より高校女子サッカーに関わっているすべての皆様のご尽力のお陰だと感じています。心より感謝申し上げます。

1年間を通じて高校女子サッカーでは様々な大会・フェスティバル等があります。12月には26日～28日まで、栃木県総合運動公園を中心に「宇都宮フェスティバル」が開催されました。県外から参加するチームも多くなり、今年度は群馬県から4チーム、茨城県から3チーム、千葉県から4チーム、山形県から2チーム参加しました。県を越えた交流を通して、指導者や選手共々、学ぶことの多かった大会になりました。年が明けて行われた新人戦では、県内11チームによるトーナメント戦を行い、どのチームも少しずつレベルが上がり僅差の試合が多くなっています。また、この大会は女子チームに携わ

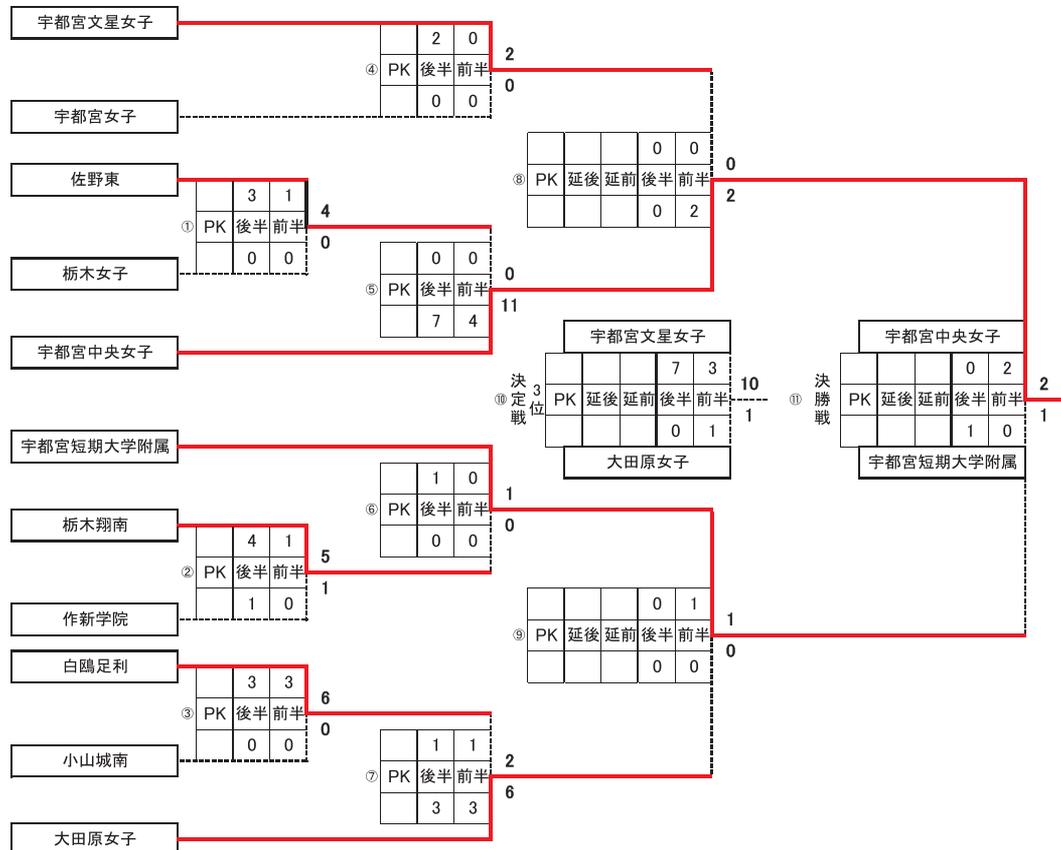
る方々の審判研修会も兼ねていたため、多くの指導者たちに高校女子サッカーを見ていただくことができました。優勝した宇都宮中央女子高校をはじめ、宇都宮短期大学附属高校や宇都宮文星女子高校は栃木県女子サッカーリーグ「えいこう杯」1部で活躍しています。一方では、小山城南高校が1部昇格を目指し頑張っています。他の高校もそれぞれ独自の取り組みを行っており、チームごとの「色」が出始めています。堅い守備からカウンターを仕掛けるチーム、ポゼッションを有利にすすめて相手を崩すチーム、互いに声を掛け合え全員で守備と攻撃をするチーム、空中戦やフィジカルコンタクトの多い場面で主導権を握れるチームなど、試合ごとに各チームの狙いが見て取れるようになりました。機会があれば、ぜひ一度見ていただけたらと思います。2019年はフランスでFIFA女子ワールドカップも開かれます。今後も栃木県の高校女子サッカーが発展できるよう関係者一同取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願いいたします。

## 平成30年度 栃木県高等学校女子サッカー新人大会

日	組合せ	時間	競技時間
1/26 (土)	①	10:00	60分 (HT10分) 延長:なし PK:あり
	②	11:30	
	③	13:00	
2/3 (日)	④	10:00	
	⑤	11:20	
	⑥	12:40	
2/10 (日)	⑧	12:00	
	⑨	14:00	
2/11 (月)	⑩	10:00	
	⑪	12:30	

※会場  
1/26、2/3 県総合運動公園サッカー場  
2/10、11 宇短附サッカー場

優勝	宇都宮中央女子
準優勝	宇都宮短期大学附属
第3位	宇都宮文星女子
第4位	大田原女子



## 宇都宮フェスティバル

12月26日～28日  
栃木県総合運動公園ほか

No	高校名	県
1	宇都宮女子	栃木
2	宇都宮短期大学附属	栃木
3	宇都宮中央女子	栃木
4	宇都宮文星女子	栃木
5	大田原女子	栃木
6	小山城南	栃木
7	作新学院	栃木
8	佐野東	栃木
9	栃木翔南	栃木
10	栃木女子	栃木
11	白鷗大学足利	栃木
12	高崎女子	群馬
13	館林女子	群馬
14	高崎健康福祉大学高崎	群馬
15	伊勢崎清明	群馬
16	土浦第二	茨城
17	日立第二	茨城
18	水戸第三	茨城
19	市立松戸	千葉
20	FCK合同	千葉
21	流山おおたかの森	千葉
22	柏の葉	千葉
23	山形城北	山形
24	新庄東	山形

### 中学連盟

## 全国中学校サッカー大会視察報告 栃木県中体連サッカー専門部暑熱対策



33種技術委員長  
中体連サッカー専門部委員長  
御子貝 和亮

### 全国中学校サッカー大会視察報告

#### (1) 大会全般

今年の全国中学校サッカー大会は8月20日から24日ま

で鳥取県鳥取市で行われた。8月後半とはいえ、まだ夏の暑さが残る中でのトーナメント戦であった。

大会を通して、例年の傾向ではあるが、私立中学校の高い身体能力とチームのコンセプトを体現する戦術理解度・表現する確かな技術を要するチームが目立った。特に、優勝した日章学園中学校や準優勝の青森山田中学校をはじめとする中高一貫校は、高校サッカーとスタイルを同様に行っている場面が随所に見られた。セットプレーをはじめとする相手ゴールを目指した攻撃と、攻守にわたってインテンシティの高い球際や強いメンタルを表現するハードワークは、素晴らしいものであった。また、GKも含めた攻守、奪われた瞬間からの連動した守備、奪った瞬間からの攻撃へのスタートなど等の切り替えの早さなど、チームコンセプトが徹底され、洗練されたトレーニングに裏付けられた内容の試合が多かった。

#### (2) 栃木県のチームの戦いとトーナメントを勝ち抜く私立中学の戦術

西那須野中学校が初出場し、1回戦は北海道代表の桜蘭中学校に4-1で勝利した。しかし、2回戦はルーテル学院中学校に0-5で敗退した。その中でも、特に戦術的駆け引きがあり、様々な状況下で選手がチームのコンセプトを理解し分析し、表現する技術が必要不可欠であると思われられた。

具体的には、ルーテル学院は、西那須野の1回戦の戦いぶりを分析し、西那須野のFWの選手に、ルーテル学院の中心選手をマンツーマンでつけてきた。普段は攻撃的MFをしている選手が西那須野のFWをマンツーマンし、センターバックをカバーリングに置くことによって、西那須野の攻撃は、無に近く、何もさせてもらえなかった。その間、2点目を取ると通常のポジションに戻し、西那須野にさらに追い打ちをかける戦術であった。結果的に0-5で大敗した。

敗因はそれだけではないが、他の私立中学もスカウティングを大人（チームスタッフ）が行い、ビデオ分析や入念なミーティングを行っていた。また、高校サッカーのようにセットプレーの重要性を認識している私立中学も少なくない。ロングスローをゴールエリアまで投げられる選手が左右に1人以上配置している青森山田中学など特に特徴的であった。

各チーム戦術のコンセプトこそ違いますが、GKを含めて11人でボールを保持しながら、攻守の切り替えを速く、球際の強さを保ち、セットプレーを

生かして、相手ゴールを脅かす戦い方が主流であった。

### (3) 夏季大会での戦い方

全国中学校大会は、8月開催で夏の暑さの真っ只中にあたる。運営面でもWBGTを計測した上で「クーリングブレイク」「飲水タイム」を設けるなど、選手の健康面での配慮がなされた大会であった。そんな中、多くのチームが、パフォーマンス維持のための戦い方を工夫していた。各チームによって違いはあるが、60分ゲームを「クーリングブレイク」があることで、1試合を4分割で考え、①前からアグレッシブに守備をし、早くゴールへ向かう時間帯と、②中間ないし低く守備ブロックをひいて相手の攻撃を遅らせ、DFからローペースでビルドアップさせる時間帯、③ロングボールを多用し、手数をかけないで攻撃をする時間帯などに分けてゲームを進めていた。それでも暑さや連戦で疲労が蓄積すると思うが、各出場チームがパフォーマンス維持のため休養面、栄養面、水分の取り方など、他の大会とは異なるチームマネジメントが必要になる大会である。

### 栃木県中体連サッカー専門部暑熱対策

今年度、中体連サッカー専門部では、夏の総体県大会において暑熱対策として、JFAからのガイドラインをもとに地区大会、県大会を通じて選手の安全対策を最優先に大会を運営した。

中体連の大会ということで、大会日をずらすことはできないことを考えると大会は行うことを前提に考え、WBGTを計測し、31℃以上あってからは準備ができないので、今大会は以下の対策を行った上で各地区大会・県大会の大会運営を行うことを周知した。

#### 対策（その1） 事前準備

- ①WBGT計測器の各会場で計測
- ②試合時間の変更＝午前中に試合開始  
午後2時～3時45分間の試合開始はしない
- ③人工芝ピッチを原則使用しない
- ④ベンチテント・本部テント・控えテントの用意  
(会場によって各チーム持ち寄りテントでも可)
- ⑤1日2試合は行わない  
(やむを得ず行う場合はクーラー付きのロッカールームがある会場で)  
(クーラーをつけてバスの中で休む)
- ⑥各会場で水以外のスポーツドリンク等の補給可

エリアについて会場に確認をとる。

- ⑦救急搬送できる病院の確保
- ⑧各会場グラウンド近くにAEDを確保

#### 対策（その2）大会・試合実施時の対応

- ①WBGTを計測
- ②ガイドラインでは『WBGT 31℃以上の場合には試合を中止、延期をする』とあるが、当日WBGTを計測したときに31℃以上あったときには『やむを得ず行う場合』として、上記対策（その1）の準備をした上で、[Cooling Break]を行う
- ③各チームに当日の、氷、スポーツドリンク、経口補水液の準備をチームの責任において必ず準備する。

上記の対策をとった上で

#### ※平成30年度総体サッカー大会レギュレーション

- ①1日1試合、原則1会場2試合とする。(1日目8会場使用)
- ②試合30分ハーフ、全試合延長なし、即PK。
- ③ハーフタイム10分、クーリングブレイク5分、間に飲水タイム1分。
- ④7回までの自由な交代とする。

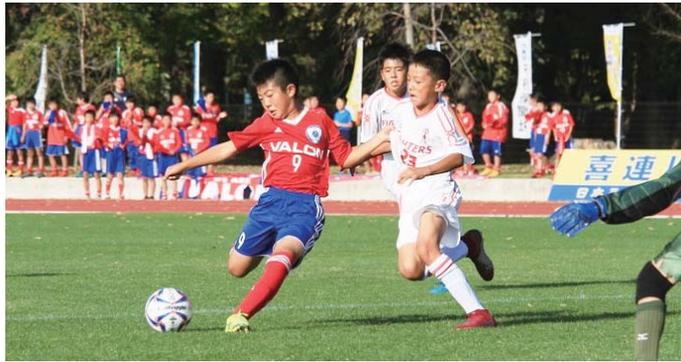
近年の暑さからいえばサッカーという種目を行うことは選手の健康面を考えると困難である。しかし、大会をやらなければならない場合、プレイヤーズファーストと選手の健康面の配慮をすることで、試合の運営が可能である。上記にあるようなあらゆる対策を講じ、通常は変えることがないレギュレーションなども思い切って変えて行い、最善の安全面での配慮で運営は可能であると考えている。運営サイドの先生方のご尽力で、ここ2年間、夏の県総体で選手の熱中症発症ゼロという成果が出ている。しかし、実際には1日目8会場を使用することでの会場不足・費用不足や、クーラー付きの競技場が少ないこと、使用できる天然芝ピッチが少ないなど問題も多いが、選手の安全を第一に考え、栃木県中体連サッカー専門部の先生方全員の協力で今後行っていきたい。

少年連盟

第4種委員会

第47回栃木県少年サッカー選手権大会

10月27日から4日間にわたり、第47回選手権大会が行われました。



180チームが参加した今大会も数多くの熱戦が繰り広げられました。決勝の組み合わせはJFCファイターズ（芳賀）対FC VALON（下都賀）となりました。両者一步も譲らぬ好ゲームとなり、決着は延長戦にまでもつれました。接戦を制したのはFC VALONでした。準優勝はJFCファイターズ、第3位にはHFC.ZERO真岡（芳賀）、FCがむしゃら（下都賀）が輝きました。



<優勝したFC VALON>



<準優勝のJFCファイターズ>



<第3位のHFC.ZERO真岡>



<第3位のFCがむしゃら>

また、10月8日、13日にはジュニアの部（4年生以下）も開催されました。結果は、MORANGO栃木FC U-12（下都賀）、ともぞうSC（宇河）、三島FC（北那須）、FC朱雀（両毛）、ヴェルフェたかはら那須U-10（塩谷南那須）、FE. アトレチコ佐野（両毛）、JFCアミスタ市貝（芳賀）、栃木SCジュニアU-10（宇河）が各ブロックで優勝しました。

JFA第42回全日本U-12サッカー選手権大会栃木県大会

11月18日から3日間にわたり、全国大会への切符をかけた熱い戦いが繰り広げられました。今年度もトップリーグのチームと地域リーグを勝ち上がった64チームが大会に参加しました。

最終日の準決勝まで勝ち進んだのは、栃木SCジュニア（宇河）FC VALON（下都賀）ともぞうSC（宇河）ヴェルフェたかはら那須U-12（塩谷南那須）の4チームでした。

決勝戦は、栃木SCジュニア対FC VALONとなり、打ち合いをものにしたFC VALONが優勝し、初の全国大会の切符を手に入れました。



＜優勝したFC VALON＞



＜準優勝の栃木SCジュニア＞



＜第三位 ともぞうSC＞



＜第三位ヴェルフェたかはら那須U-12＞

## JFA第42回全日本U-12 サッカー選手権大会

12月25日から鹿児島県にて開催されました。本県代表のFC VALONはSSクリエイト（大阪府）、リベロ津軽SC（青森県）、ソレッソ熊本（熊本県）の3チームと予選リーグを戦いました。

SSクリエイトに0-4、リベロ津軽SCに1-3、ソレッソ熊本に0-3と、3敗し、予選敗退となりました。

## JA全農杯全国小学生サッカー大会 in関東栃木県大会 兼 第36回栃木県少年サッカー新人大会

1月19日から3日間にわたって新人大会が開催されました。

大会は各地区の予選を勝ち上がった64チームが優勝を目指して激しい戦いを繰り広げました。

決勝日に勝ち進んだのは、栃木SCジュニア（宇河）、ともぞうSC（宇河）、TEAMリフレSC（宇河）、南河内サッカースポーツ少年団（下都賀）の

4チームでした。決勝は、栃木SCジュニア対TEAMリフレSCの対決となりました。栃木SCジュニアが底力を見せ6-1で勝利し、優勝の栄冠を勝ち取りました。



＜優勝の栃木SCジュニア＞



＜準優勝のTEAMリフレSC＞

**シニア連盟**

**第12回関東シニアO-40サッカー選手権大会**

A組		千葉県	山梨県	埼玉県	神奈川県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
①千葉県	FCTキガネシニア		○ 4-0	○ 3-1	× 0-2	2	6	2	0	1	7	3	4
②山梨県	FCリズム	× 0-4		× 0-4	× 0-3	4	0	0	0	3	0	11	-11
③埼玉県	クマガヤSCシニア	× 1-3	● 4-0		× 0-1	3	3	1	0	2	5	4	1
④神奈川県	横浜シニア	○ 2-0	○ 3-0	○ 1-0		1	9	3	0	0	6	0	6

B組		茨城県	東京都	群馬県	栃木県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
⑤茨城県	ドリーム水戸シニアFC		○ 2-1	○ 3-0	○ 3-1	1	9	3	0	0	8	2	6
⑥東京都	レアル東京	× 1-2		○ 1-0	○ 6-0	2	6	2	0	1	8	2	6
⑦群馬県	図南サッカークラブ	× 0-3	× 0-1		○ 1-0	3	3	1	0	2	1	4	-3
⑧栃木県	BOLAMISC宇都宮	× 1-3	× 0-6	× 0-1		4	0	0	0	3	1	10	-9

優勝決定戦	A組1位	B組1位
	神奈川県 横浜シニア	0-1 茨城県 ドリーム水戸
3・4位決定戦	A組2位	B組2位
	千葉県 トキガネFC	1-2 東京都 レアル東京
5・6位決定戦	A組3位	B組3位
	埼玉県 クマガヤSC	4-0 群馬県 関南SC
7・8位決定戦	A組4位	B組4位
	山梨県 FCリズム	0-1 栃木県 BOLAMISC 宇都宮

優勝	準優勝
ドリーム水戸シニアFC	横浜シニア
第3位	第4位
レアル東京	FCトキガネシニア
第5位	第6位
クマガヤSCシニア	関南サッカークラブ
第7位	第8位
BORAMISC宇都宮	FCリズム

## 第12回関東シニアサッカー選手権大会（0-50）

【試合会場】 神奈川県立保土ヶ谷公園サッカー場（天然芝）・ラクビー場（人工芝）

【試合時間】 予選リーグ（①～⑫）：50分（25分-5分-25分）・順位決定戦（⑬～⑯）：40分（20分-5分-20分）

試合日	マッチ No.	試合会場	キックオフ 時間	対戦カード				備考	
				チーム名	都県名	チーム名	都県名		
12/8 (土)	①	サッカー場	10:00	藤沢マスターズ50	神奈川県	VS	ドリーム水戸シニア	茨城県	B組予選リーグ
	②	ラクビー場	10:00	FC浦和シニア	埼玉県	VS	山梨マスターズ・レジェンド	山梨県	B組予選リーグ
	③	サッカー場	11:00	東京ベイトボールクラブ0-50	東京都	VS	FC前橋50	群馬県	A組予選リーグ
	④	ラクビー場	11:00	習志野台シニアクラブ	千葉県	VS	栃木教員マスターズ	栃木県	A組予選リーグ
	⑤	サッカー場	12:00	山梨マスターズ・レジェンド	山梨県	VS	藤沢マスターズ50	神奈川県	B組予選リーグ
	⑥	ラクビー場	12:00	ドリーム水戸シニア	茨城県	VS	FC浦和シニア	埼玉県	B組予選リーグ
	⑦	サッカー場	13:00	栃木教員マスターズ	栃木県	VS	東京ベイトボールクラブ0-50	東京都	A組予選リーグ
	⑧	ラクビー場	13:00	FC前橋50	群馬県	VS	習志野台シニアクラブ	千葉県	A組予選リーグ
12/9 (日)	⑨	サッカー場	9:30	FC浦和シニア	埼玉県	VS	藤沢マスターズ50	神奈川県	B組予選リーグ
	⑩	ラクビー場	9:30	山梨マスターズ・レジェンド	山梨県	VS	ドリーム水戸シニア	茨城県	B組予選リーグ
	⑪	サッカー場	10:30	習志野台シニアクラブ	千葉県	VS	東京ベイトボールクラブ0-50	東京都	A組予選リーグ
	⑫	ラクビー場	10:30	FC前橋50	群馬県	VS	栃木教員マスターズ	栃木県	A組予選リーグ
	⑬	ラクビー場	12:30	栃木教員マスターズ	A4位	VS	藤沢マスターズ50	B4位	7・8位決定戦
	⑭	ラクビー場	13:30	FC前橋50	A3位	VS	山梨マスターズ・レジェンド	B3位	5・6位決定戦
	⑮	サッカー場	12:30	東京ベイトボールクラブ0-50	A2位	VS	ドリーム水戸シニア	B2位	3位決定戦
	⑯	サッカー場	13:30	習志野台シニアクラブ	A1位	VS	FC浦和シニア	B1位	優勝決定戦

### 【戦績表】

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】	東京都	千葉県	栃木県	群馬県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1 東京都	●	○	○	○	3	6	2	0	1	10	5	5	2
2 千葉県	○	●	○	○	3	9	3	0	0	6	1	5	1
3 栃木県	●	●	●	●	3	0	0	0	3	0	13	-13	4
4 群馬県	●	●	○	○	3	3	1	0	2	7	4	3	3

【B組】	神奈川県	埼玉県	山梨県	茨城県	試合数	勝点	勝数	分数	負数	得点	失点	得失点差	順位
1 神奈川県	●	○	○	△	2	1	0	1	1	1	3	-2	4
2 埼玉県	○	●	△	○	2	4	1	1	0	5	2	3	1
3 山梨県	○	△	●	○	2	4	1	1	0	3	4	-1	2
4 茨城県	△	●	○	○	2	1	0	1	1	3	3	0	3

【順位決定戦】

【優勝・準優勝】 決定戦	習志野台シニアクラブ	A1位	0	0	0	0	0	0	0	0	B1位	FC浦和シニア
【3位・4位決定戦】	東京ベイフットボールクラブO-50	A2位	2	1	1	2	1	1	2	2	B2位	ドリーム水戸シニア
【5位・6位決定戦】	FC前橋50	A3位	0	0	0	2	0	2	4	4	B3位	山梨マスターズ・レジェンド
【7位・8位決定戦】	栃木教員マスターズ	A4位	0	0	0	3	0	1	4	4	B4位	藤沢マスターズ50

総合優勝 B-2 FC浦和シニア  
 総合準優勝 A-2 習志野台シニアクラブ  
 総合3位 A-1 東京ベイフットボールクラブO-50  
 総合3位 B-4 ドリーム水戸シニア

総合5位 B-3 山梨マスターズ・レジェンド  
 総合6位 A-4 FC前橋50  
 総合7位 B-1 藤沢マスターズ50  
 総合8位 A-3 栃木教員マスターズ

JFA第19回全日本O-60サッカー大会関東予選会

A組		埼玉県	山梨県	神奈川県	東京都	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
①埼玉県	埼玉シニア60		○ 4-1	○ 4-0	× 0-1	2	6	2	0	1	8	2	6
②山梨県	山梨シニア	× 1-4		○ 3-0	× 0-5	3	3	1	0	2	4	9	-5
③神奈川県	茅ヶ崎えぼし	× 0-4	× 0-3		× 1-4	4	0	0	0	3	1	11	-10
④東京都	PET	○ 1-0	○ 5-0	○ 4-1		1	9	3	0	0	10	1	9

B組		群馬県	千葉県	栃木県	茨城県	順位	勝点	勝数	引分	負数	得点	失点	得失点差
⑤群馬県	FC前橋60		○ 2-0	○ 4-0	× 0-6	2	6	2	0	1	6	6	0
⑥千葉県	アスレチックちば	× 0-2		○ 1-0	△ 0-0	3	4	1	1	1	1	2	-1
⑦栃木県	栃木大昭 サッカークラブ	× 0-4	× 0-1		× 1-6	4	0	0	0	3	1	11	-10
⑧茨城県	ラッツフス古河FC	○ 6-0	△ 0-0	○ 6-1		1	7	2	1	0	12	1	11

優勝決定戦	A組1位	B組1位
	東京都 PET	茨城県 ラッツフス古河
3・4位決定戦	A組2位	B組2位
	埼玉県 埼玉シニア60	群馬県 FC前橋
5・6位決定戦	A組3位	B組3位
	山梨県 山梨シニア	千葉県 ACちば
7・8位決定戦	A組4位	B組4位
	神奈川県 茅ヶ崎えぼし	栃木県 大正サッカークラブ

優勝	準優勝
PET	ラッツフス古河FC
第3位	第4位
埼玉シニア60	FC前橋60
第5位	第6位
アスレチックちば	山梨シニア
第7位	第8位
茅ヶ崎えぼし	栃木大昭サッカークラブ

## JFA第13回O-70サッカーオープン大会関東予選会 兼 第16回関東選手権大会O-70

【試合会場】 前橋フットボールセンター

【試合時間】 予選リーグ (①~⑫) : 40分 (20分-10分-20分) ・順位決定戦 (⑬~⑯) : 40分 (20分-10分-20分) +PK戦

試合日	マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード										備考
				チーム名	都県名	計	前後	VS	前後	計	チーム名	都県名		
11/17 (土)	①	Aコート	10:00	東京都ロイヤル	東京都	0	0	VS	0	0	0	茅ヶ崎70雀	神奈川県	A組予選リーグ
	②	Bコート	10:00	茨城シニア70	茨城県	3	2	VS	1	1	1	群馬FC70	群馬県	A組予選リーグ
	③	Aコート	11:15	埼玉シニア70	埼玉県	0	0	VS	1	1	2	アスレチッククラブちば	千葉県	B組予選リーグ
	④	Bコート	11:15	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	1	0	VS	1	1	2	山梨シニア70	山梨県	B組予選リーグ
	⑤	Aコート	12:30	東京都ロイヤル	東京都	0	0	VS	0	0	0	茨城シニア70	茨城県	A組予選リーグ
	⑥	Bコート	12:30	茅ヶ崎70雀	神奈川県	6	4	VS	0	0	0	群馬FC70	群馬県	A組予選リーグ
	⑦	Aコート	13:45	埼玉シニア70	埼玉県	4	2	VS	1	0	1	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	B組予選リーグ
	⑧	Bコート	13:45	アスレチッククラブちば	千葉県	1	0	VS	0	0	0	山梨シニア70	山梨県	B組予選リーグ
11/18 (日)	⑨	Aコート	9:30	茅ヶ崎70雀	神奈川県	2	2	VS	0	0	0	茨城シニア70	茨城県	A組予選リーグ
	⑩	Bコート	9:30	東京都ロイヤル	東京都	3	0	VS	0	0	0	群馬FC70	群馬県	A組予選リーグ
	⑪	Aコート	10:45	アスレチッククラブちば	千葉県	4	2	VS	0	0	0	栃木大昭サッカークラブ	栃木県	B組予選リーグ
	⑫	Bコート	10:45	埼玉シニア70	埼玉県	0	0	VS	1	1	1	山梨シニア70	山梨県	B組予選リーグ
	⑬	Aコート	12:45	群馬FC70	A4位	1	1	VS	0	0	0	栃木大昭サッカークラブ	B4位	7・8位決定戦
	⑭	Aコート	12:45	茨城シニア70	A3位	0	0	VS	0	0	0	埼玉シニア70	B3位	5・6位決定戦
	⑮	Bコート	14:00	東京都ロイヤル	A2位	4	1	VS	0	0	0	山梨シニア70	B2位	3位決定戦
	⑯	Aコート	14:00	茅ヶ崎70雀	A1位	4	2	VS	0	0	0	アスレチッククラブちば	B1位	優勝決定戦

【戦績表】

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】		東京都ロイヤル 東京都	茅ヶ崎70雀 神奈川県	茨城シニア70 茨城県	群馬FC70 群馬県	試合数	勝点	勝数	分	負	得	失	得失	順位
1	東京都ロイヤル 東京都	△	○	○	○	3	5	1	2	0	3	0	3	2
2	茅ヶ崎70雀 神奈川県	△	○	○	○	3	7	2	1	0	8	0	8	1
3	茨城シニア10 茨城県	△	●	○	○	3	4	1	1	1	3	3	0	3
4	群馬FC10 群馬県	●	●	●	○	3	0	0	0	3	1	12	-11	4

【B組】		埼玉シニア70 埼玉県	アスレチッククラブちば 千葉県	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	山梨シニア70 山梨県	試合数	勝点	勝数	分	負	得	失	得失	順位
1	埼玉シニア70 埼玉県	○	●	○	●	3	3	1	0	2	4	4	0	3
2	アスレチッククラブちば 千葉県	○	○	○	○	3	9	3	0	0	7	0	7	1
3	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	●	●	○	●	3	0	0	0	3	2	10	-8	4
4	山梨シニア70 山梨県	○	●	○	○	3	6	2	0	1	3	2	1	2

【順位決定戦】

【優勝決定戦】	茅ヶ崎70雀 神奈川県	A1位	4	2	-	0	0	アスレチッククラブちば 千葉県	B1位
【3位決定戦】	東京都ロイヤル 東京都	A2位	4	1	-	0	0	山梨シニア70 山梨県	B2位
【5位決定戦】	茨城シニア70 茨城県	A3位	0	0	-	0	0	埼玉シニア70 埼玉県	B3位
【7位決定戦】	群馬FC70 群馬県	A4位	1	1	-	0	0	栃木大昭サッカークラブ 栃木県	B4位

- 優勝 茅ヶ崎70雀
- 準優勝 アスレチッククラブちば
- 第3位 東京都ロイヤル
- 第4位 山梨シニア70
- 第5位 埼玉シニア70
- 第6位 茨城シニア70
- 第7位 群馬FC70
- 第8位 栃木大昭サッカークラブ

**キッズ委員会**

**両毛地区のキッズの活動報告**

県キッズ委員 常松 浩一

◇佐野でJFAキッズフェスティバル開催

11月25日に佐野市多目的球技場にてJFAキッズフェスティバルin佐野を開催しました。



佐野市協会では毎年地区の活動として、これからサッカーを始めるキッズ年代の子供に向けて、小学校にチラシ配布をし、普及に向けて活動しています。

今回、県主催のフェスティバルを開催するにあたって、同じように県南地区の小学校にチラシで募集し、初めてフェスティバルに、参加する沢山の子供たちが集まりました。



スタッフも県のキッズ委員だけでなく、地元の少年チームのコーチの皆さんのお手伝いや、栃木SCコーチや佐野東高校女子サッカー部の生徒とOGの協力もあり、沢山のスタッフで運営が出来て、みんな楽しく、ウォーミングアップからシュートやドリブルなどの各セッション、ゲームと盛り上がりました。参加した子供達の沢山の笑顔で、元気をもらえる1日になりました。これからも今回に満足することなく、より良いフェスティバルが

続けて行けるように、頑張っていきたいと思います。

◇佐野東高校とのフェスティバルを開催

2月24日に佐野東高グラウンドにてフェスティバルを開催しました。(3月10日も開催予定)県内でも唯一男女の高校サッカー部員と一緒に子供達とかかわってくれる素晴らしいフェスティバルです。



佐野、足利の少年チームの1, 2, 3年生が参加して、ウォーミングアップ、シュートトレーニング、ゲームと楽しく高校生とサッカーが出来ました。お兄さん、お姉さんコーチの良いアドバイスの声や、励ます声など声掛けをするたびに参加したキッズ達は目を輝かせボールを追って走り回っていました。



スタッフである我々が一緒になって子供達と楽しむ大切さを改めて感じる事が出来たフェスティバルでした。

◇AFCからの視察

10月に鹿沼でグラスルーツフェスティバルを行ったときに、AFCからの視察がありました。セッションやゲームなどを見て、スタッフの声掛けや笑顔など子供たちが楽しそうにしている活動を褒めて頂きました。これからも頑張っていきたいと思

ます。余談ですが森保日本代表監督もキッズリーダーインストラクターの資格をもっている初の監督だそうです。皆さんもキッズリーダーの取得をお願いします。



**フットサル委員会**

**フットサルU-18日本一の矢板中央高選手たちが巣立ちの日**

2017年夏、宮城県で行われた第4回全日本ユース(U-18)フットサル大会で日本一となった矢板中央高。当時、全国制覇を成し遂げたチームは2年生主体で、その時のメンバーたちが今春、卒業を迎えました。日本一で一躍脚光を浴び、フットサルの世代別日本代表に選ばれたFP大塚尋斗選手はサッカーとの二刀流で法政大へ進学。決勝で好セーブを連発した主将の吉澤亮選手は、今春フットサル部が創設される東京国際大へと進みます。チームを牽引した2人に、高校フットサルの思い出と今後の抱負を伺いました。



▲健闘を誓い握手する大塚(右)、吉澤両選手

大塚選手はこの大会で大会記録となる19ゴールをマークし、得点王とMVPも獲得。活躍が評価され、当時のフットサル19歳以下日本代表にも選出されました。そこからコンスタントに候補合宿にも呼ばれるようになり、昨年はモンゴルで行われたU20アジア選手権予選に出場しました。大会で日本代表はマカオ、香港に勝利し、6月にイランで開催される本大会出場も決めました。



▲2018年夏の関東大会でシュートを放つ大塚選手

身長182センチ、体重76キロと恵まれた体格で左利き。パワフルなシュートを持ち味とし、本業のサッカーでも中心選手としてチームを牽引しました。「フットサルも『やるなら日本一』と思って始めました。高校時代は濃い3年間でした」と振り返ります。フットサルの魅力は「サッカーより狭いコートに立って、パスで局面を開いて小さいゴールにシュートを決めることに面白さがある。切り替えの早さが求められ、点数も動くところもいい」と話します。

日本代表ではフィニッシュ役のピヴォとして起用され、アジア選手権予選ではマカオ戦でハットトリック、香港戦で2得点と結果を残しました。「海外での貴重な経験。100%のパフォーマンスを出すため、1日1日を無駄にせずに試合に臨んだ」と大塚選手。チーム内でも信頼を得て、フットサル選手としても確固たる地位を確立しつつあります。

大学進学後もサッカー部に身を置きながら、サッカーとフットサルの二刀流でトッププレイヤーを目指すこととなります。サッカー優先の立場は取りますが、「Jリーグに進めなければ、Fリーグへ進むことも考えたい」と目標を口にしました。

一方、大塚選手と共に全日本ユース日本一の立役者となったのがGKの吉澤亮選手です。「サッカーでは3年間Bチームだったが、フットサルで結果を出せたので今がある」と話します。吉澤選

手は2年間、矢板中央高のフットサルチームで不動の守護神として活躍しました。

身長は172センチとGKとして上背はありませんが、抜群の反射神経と鋭い読み、正確なゴールスローとフットサルのGKとしては全国区の選手との評価です。プレーヤーとしてフットサルに活路を見つけ、Fリーグを目指してフットサルで進学をするという、新たな境地を切り開くことになりました。「サッカーは高校で終わりにしようと思っていたが、高校での経験を生かしフットサルを続けようと思った。悩みましたが」と話します。



▲2018年夏の関東大会でも主力として活躍した吉澤選手

目標はもちろんFリーガー。「東京国際大はサッカー部としてフットサルの関東大会出場経験はあると聞いている。ただまだ全国には届いていないので、専門のフットサル部として全国出場を果たしたい」と胸の内を明かしました。

この春から大塚選手は東京で、吉澤選手は地元埼玉でフットサル選手として新たな一步を踏み出します。栃木を巣立った2人の活躍に注目しましょう。

## 関東リーグ2部で6シーズン活躍 モランゴ栃木が「シティ」に

栃木県を代表するフットサルチームとして、関東フットサルリーグ2部で奮闘を続けてきた社会人クラブチームのモランゴ栃木。今春、10年間の活動に終止符を打ち、運営委託という形で同じ栃木市を拠点とする社会人サッカークラブ・栃木シティFCの傘下に入ります。

チーム名も「栃木シティフットサルクラブ」と改名し、数年後のフットサル日本リーグ「Fリーグ」入りを目指します。チームは2018年シーズン、関東リーグの入替戦に敗れ惜しくも栃木県リーグ降格

となりました。しかし、フットサルディレクターに元日本代表の岸本武志氏を招聘するなど体制を強化。セレクションも行いさらなるチーム強化を図っています。

今年の栃木県リーグは1部が6月開幕。栃木シティフットサルクラブの日本最高峰のリーグへ向けた挑戦が始まります。

## 女子委員会

### 女子サッカーの活性化を目指して カンファレンス初開催

12月22日に栃木県グリーンスタジアムで皇后杯JFA第40回全日本女子サッカー選手権大会の準々決勝が行われました。「INAC神戸ー新潟」「ノジマステラ神奈川相模原ー千葉」の熱い戦いに合わせて、栃木県サッカー協会主催のレガシープログラムとして「女子サッカーカンファレンス」、「親子サッカー教室」「審判講習会」が同スタジアムで初開催されました。

これは日本サッカー協会でJFA女子サッカーコーディネーター（栃木県担当）を務める手塚貴子さんを中心に企画されたもので、手塚さんの「県内で様々な形で女子サッカーに関わる方々と女子サッカーの活性化について話がしたい」との思いから実現しました。当日は県内女子チームの選手や指導者、トレセンスタッフなど約20人が参加しました。



▲選手、指導者らが参加したカンファレンス(JFA提供)

手塚さんが講師役となり、日本サッカー協会が掲げる「サッカーを女性の身近なスポーツにする」「なでしこジャパンが世界のトップクラスであり続ける」「世界基準の『個』を育成する」といった、なでしこvisionを説明し、さらに本県の普及の

現状などを詳しく参加者に伝えました。その後、グループディスカッションで「県内の女子登録人数を増やすには」というテーマを基に話し合いました。その結果、選手や指導者、スタッフなどからそれぞれの視点での意見が寄せられました。

今回のカンファレンスを終えて、手塚さんは「みなさんから出た意見などを、今後の県内の女子サッカーの活性化に必ずつなげていきたい。細かく登録状況等を分析して対応策なども考えたい」と話し、今後については「このようなカンファレンスを定期的で開催し、もっともっと多くの方に女子サッカーの現状を理解してもらい、意見やアイデアをもらいながらサッカーファミリーの拡充に努めたい」と話していました。

## 審判委員会

### Jリーグを担当して

J F Aサッカー1級審判員 岩崎 創一



1993年に日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）がスタートしてから、記念すべき25シーズン目が終了しました。

自分が小学生だった頃、1つ上の先輩のお父さんが「チケットを持っている」とのことで、所属していたチームみんなで、栃木県総合運動公園に試合を観に行っただのを、今でも覚えています。会場には多くの観客が試合を観に来ており、自分がそれまで経験したことのない雰囲気での盛り上がりを見せていました。スピード・激しさ・巧さ・気迫、一つ一つに魅了され、あっという間に時間が過ぎていきました。試合が終わってもその興奮は冷めやらず、帰りの道中、試合の話でもちきりでした。

自分にとっては雲の上のような、選手時代には程遠い存在であったJリーグ。いつしか審判員として活動するようになってから、「Jリーグのピッチに立ちたい」そう願うようになっていました。2016年度のシーズンから1級審判員として活動を始め、昨シーズンからJリーグを担当させてもらえることとなりました。憧れの舞台であったJリーグのピッチに立てることに、大きな喜びを感じています。ここまでサッカーや審判活動を一緒に続け

てきてくれた仲間、その環境を整え活動を支えてくれた指導者・関係者・家族・周囲の人々などに感謝をすると共に、昨シーズンを通して感じたことを書かせていただきます。

① 1つの試合を運営するために

Jリーグの試合を担当してまず驚いたのが、1つの試合に関わる人の多さです。選手や監督・コーチなどはテレビを観ていてもよく映りますが、その他にもスタジアムの中にはたくさんの方が行き交っています。試合の責任者、連絡調整したり会場全体をコントロールしたりする運営本部の人、受付の人、警備の人、ボールパーソンやボランティアの人、TV局や記者の人、試合を盛り上げるためのイベントをしてくれるDJやパフォーマーなど、その他にも細かく挙げたらきりがありません。今までテレビで観ていたあの「1試合」は、何百人もの人の協力があって成り立っているものだというを知ることができました。

また、試合には観客・サポーターの皆さんの存在も欠かせません。スタジアムには、毎試合たくさんのお客さんが試合を楽しみに足を運んでくださいます。お客さんが入ったスタジアムの雰囲気・盛り上がりは独特で、ピッチ上で感じるそれは、試合を観に行ったときに感じたそれとはまた一味違ったものでした。入場者数が多いということは、それだけ注目度が高いということで、その試合に関わる一員として、選手・チームスタッフと共に、少しでもお客さんに楽しんでもらえる試合になるように、気を引き締めて1試合1試合に臨んでいます。

② よりエキサイティングなサッカーを目指して

発足25年の間に、リーグも、サッカー自体も大きく変わってきたことと思います。Jリーグでは、2012年度のシーズンから、試合自体の魅力向上を目指して、「+Qualityプロジェクト」を発足しました。試合を観に来るお客さんにとって不快となり得るプレーをなくし、フェア・クリーン・スピーディー・タフな試合の実現を目指したものです。

「①簡単に倒れない、笛が鳴るまでプレーをやめない、②リスタートを早くしよう、③選手交代を早くしよう、④異義・遅延はゼロを目指そう」の4つの約束を通して、エキサイティングなサッカーを提供することを目標としています。

実際に試合を担当してみて感じたのは、「球際の強さ」と「ゴールに向かう意識」の違いです。

「球際の強さ」については、ここ最近の数人の外国人日本代表監督の影響もあり、ボールを奪い合う際、激しいフィジカルコンタクトが多く見ら

れるようになったように思います。相手の動きを妨げるために体に行くコンタクトではなく、ボールにプレーし合う中で生じるコンタクトであり、それに対して相手は何も言わずにプレーを続けます。そういったプレーが増えていくことで、タフな試合を演出できることと思います。

「ゴールに向かう意識」については、2014年のブラジルワールドカップを観て、「縦に速いサッカーをする国が増えたな」と感じたことを覚えています。Jリーグのチームも、隙あらば縦にボールを入れたり縦への突破を図ったりするなど、スピーディーな展開が多く見られます。

その他にも、お互いの戦術を理解し、さっきまでそこにいた選手がある時間帯は反対サイドにいたり、オフサイドポジションから下がってくるDFラインにタイミングよく合わせてボールを受けたりなど、戦術の駆け引きが見られ、大変おもしろいです。

審判員として、それぞれのチーム・選手の戦術を理解し、サッカーの変化にも対応しながら、サッカーをする人や見る人のために、そして何より自分自身もサッカーを楽しむことを忘れずに、これからも活動を続けていきたいです。更なる研鑽を積んでレベルアップを目指し、より大きな試合を担当できることを目標にして頑張ります。これからも、日本のサッカー、栃木県のサッカーの発展のために力を尽くしていければと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

## 栃木のために

サッカー1級審判員 原 崇

2019年シーズンから1級審判員として活動することができるようになりました。1級審判員になるためには関東審判委員会の推薦を受け受験資格を得ることができます。推薦をいただくためには、派遣審判員として登録し、審判依頼をいつでも引き受けられるように、体調を整えたりスケジュールを調整したり、いろいろな準備が必要です。主な割当として、各種別のリーグ戦、さらには、全国大会出場チームやリーグ戦での昇格チームを決めるため決定戦など、各種大会がありました。私は依頼があった割当を受けるほかに、栃木県審判委員会からの推薦で、関東高校大会や関東社会人大会、国民体育大会関東ブロック予選に審判員として何度も参加させていただき、研修を積むことができました。こうした過程を経て、過去に2度、

2014年シーズン、2016年シーズンに受験しましたが、力及ばず合格することができませんでした。

サッカーの1級審判員になるためには受験資格に回数の上限があり、3回まで受験が認められません。2016年シーズンが終わったときは、「(なんとなく)もうだめか」と諦めかけていましたが、周りの方々の支えがあって、3回目に挑戦しようという決意できました。2018年シーズンを振り返ってみますと、上手くいったことよりもそうでなかったことの方が多かったかもしれません。「今回も合格できなかつたらどうしよう」と不安に思うことも多々ありましたが、推薦して下さった関東のために、これまでご指導なさって下さった栃木県のために、何とか「合格」という結果を示したいという気持ちの方が勝っていたのだと思います。最後の最後に結果を出すことができ、嬉しさよりも正直ホッとしました。

思い返せば、私が審判を目指したきっかけは、高校時代に地元の少年チームの帯同審判員を務めていたことでした。当時高校生だった私は、上級審判に憧れ、2003年に3級審判員の資格を取得しました。今ではユース審判員が認知されるようになってきましたが、当時はほとんどいなかったのが珍しい部類だったと思います。大学進学をきっかけ、栃木県内での審判割当を頂くようになりました。県外の大学に進学し大学近くで生活していたため、毎週末栃木県に戻って審判活動をしていました。大学在学中の2006年の春に2級に昇級しました。2級から1級になるためには3年程度の実技経験で昇級された人もいます。人と比べることではないかもしれませんが、私は10年以上かかりました。長い間、熱心にご指導なさって下さった関係各位の方には感謝の気持ちでいっぱいです。恩返しという意味も込めて、審判員という立場で栃木県のサッカーの発展に貢献したいと思います。その1つとして、2022年に開催される「いちご一会とちぎ国体」の成功に微力ながら取り組んで参ります。



2018年シーズン最後の試合  
下野杯 決勝(執筆者は主審)

## 2級審判員として

栃木県サッカー2級審判員 小田 昂佑

私がサッカー4級審判員の資格を取得したのは14歳の時でした。当時は選手として、また帯同審判員として地元の少年サッカーチームで活動していましたが、高校に進学してからは、選手に専念していたため審判を行うことができなくなってしまいました。高校卒業後はサッカーから遠のいていましたが、時間が経過するほどサッカーと関わりたい思いが強くなり、中学生の時にお世話になっていた少年サッカーチームで再び帯同審判員として活動することにしました。

審判員として活動を再開してから半年が経過した頃、偶然試合会場にいた審判委員会の方に「本気で上を目指さないか？」と声をかけていただいたことがきっかけで、本格的に審判について学び、3級審判員の資格を取得しました。取得後は、4種の県大会などを担当させていただき、その過程で、審判員の基礎や心構えなどを各地域の審判員、アドバイザーの方々から指導していただき、徐々に重要な試合も任せいただけるようになり、1種の派遣審判員としても割り当ていただけるようになりました。また、菫崎フェスティバルなどの関東協会の研修会にも参加させていただき、貴重な体験を得ることができました。

そして、昨年7月に2級審判推薦のお話を頂きました。試験内容は、体力テストと競技規則テストの2種類で、体力テストは普段からトレーニングを行っているのですが、規定のタイム内で走ることができ問題は無かったのですが、競技規則テストは改正直後に行われたので合格発表まで不安でした。試験から2か月後の昨年11月に合格の連絡があり無事2級審判員に昇級することができました。

これから2級審判員として活動して参りますが、



「右端から2人目が筆者」

今後の目標として2022年に開催される栃木国体の試合などを担当させて頂けるよう努力していきたいと思います。

最後になりますが、私がここまで来ることができたのは間違いなく、栃木県の審判員の皆様と、指導者の皆様のご指導あってのことです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。今後も審判活動に精進を重ねて参りますのでよろしくお願いたします。

## 2級審判員に昇格して

栃木S2級審判員 櫻井 和洋

昨年の7月にインストラクターの方から2級昇格推薦の話を受けました。その後、8月に行われた高校生と社会人の試合での主審の様子を見て頂き、正式に審判委員会から推薦を受けることになりました。そして、10月に群馬県高崎市で競技規則テストと体力テストを受け、2級審判昇格試験の合格に至ることができました。この2級昇格にあたりまして、審判委員会や審判仲間、各チームの関係者など多くの方々からのご指導やサポート、応援等がありました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

私が、審判を始めたのは1999年です。私が勤務している学校でサッカー部顧問となり、審判をやる人がいなかったため、4級審判員の資格を取得し、監督兼審判員となりました。その後、異動した学校にはサッカー部がなかったため、審判員の資格を更新せず、無資格となっていました。

2010年に私の息子が真岡市の少年サッカーチームに所属したことをきっかけに、再び審判活動を始めることになりました。新たに4級審判員の資格を再取得し、チームに帯同しながら審判活動を行いました。少年サッカーですから、一日に何試合も審判を担当しました。当時、練習試合や招待試合などを含めると、おそらく年間200試合ほど審判を担当していたと思います。そうしている中で、審判をやる楽しさや喜びを感じるようになっていました。勿論、審判をすれば、監督や選手、試合を見ている保護者から文句を言われることがありました。しかし、経験とともに、自分の審判員としてのジャッジに自信がもてるようになり、県大会での審判を担当したときでも、自分なりに堂々で行うことができるようになっていきました。そんな中、サッカーを通じて親しくさせて頂いた何人かの方々から、3級審判昇格試験を受けてみたらどうかという声

をかけて頂けるようになりました。

私が本気で上級審判員を目指そうと決心したのは、2015年に異動した学校で同僚となったある方との出会いが大きかったと思います。その方は、ご自身が2級審判員で、インストラクターとしても活躍されている方でした。一緒にサッカー部の部活動指導をしながら、審判員としてのアドバイスをたくさん頂きました。部活動指導が終わった後も、職員室に戻り、審判員としての経験談やよりよい審判法などについて、毎日のように話を聞かせて頂きました。その方からの熱心なご指導もあり、その年の冬に受けた昇格試験で3級審判員となることができました。現在はその方と別の職場となってしまいましたが、今になって考えると、とても貴重で贅沢な時間を過ごしていました。私の立場を、他の職員や他の学校の部活動顧問の方々からすれば、いつも細かく指導されてご苦労だなと感じていたかもしれません。しかし、上級審判員を目指す審判員にとって、私の居場所は羨ましい限りだったと思います。職場が離れてからも、大会や研修会など、何処かでお会いする度にその方からのアドバイスを頂くことができました。私が3級審判員になってからは、2級審判員への昇格を意識したご指導をその方はしてくださっていたと思います。

そして、2018年の夏に2級昇格の推薦を頂くことができました。推薦を頂いてからは、3級昇格試験のとき以上に努力しました。それまで以上にトレーニングの回数や走る距離を増やし、競技規則の勉強は時間のある限りほぼ毎日しました。2級昇格試験には自分なりに自信をもって臨めたと思います。試験当日は、奥澤さんのご指導のもと、他の受験生より早く、一番に会場入りしました。具体的には、受付開始時刻の2時間前には試験会場の駐車場に到着していました。私は比較的遅い年齢で上級審判員を目指したので、見た感じですが、私より年上の受験生は(23名中)2、3名くらいしかいなかったと思います。それでも、体力テストは若い受験生に負けないよう、精一杯頑張りました。合否の結果を待っている期間はとても長く感じました。そして、合格の連絡を受けたときは、とても嬉しく、努力してよかったこと、努力すれば結果がついてくることを改めて感じながら、支えてくれた家族に報告しました。

合格が決まってから、ある審判仲間からメールを頂きました。そこには、「これからが責任重大ですので、また一緒に頑張っていきましょう！」と書かれていました。2級審判員になることが目標ではなく、今後の活動が大切であることをアドバイスされ

た気がしました。

今の私が審判員として活動していただけるのは、これまでお世話になった多くの方々のお蔭です。サッカーを通じて、また審判活動を通じて出会った方々の人数は、おそらく1000人を超えていると思います。その多くの方々との出会いがあったからこそ、現在の2級審判員としての活動ができていると感謝しております。これまでお世話になった方々やチーム、地域、審判委員会、栃木県協会に少しでも恩返しができるように、仲間と切磋琢磨しながら努力を続けていきたいです。

これから2級を目指す審判員の方のために、私が昇格試験を受けたときの日程を記載します。参考になれば幸いです。

- 10:00 受付  
(群馬県高崎市 浜川プール会議室)
- 10:10 関東サッカー協会審判委員長挨拶
- 10:15 講話(2級審判としての心構え)
- 11:10 競技規則テスト
- 12:00 昼食
- 13:00 講話(競技規則テストの解説)
- 14:00 体力テスト会場へ移動  
(浜川運動公園陸上競技場)
- 15:00 体力テスト実測  
40m×6本(6.9秒以内)  
インターバル走  
(75m(20秒)+25m((25秒))×32本)
- 16:00 連絡事項(手続き等について)
- 17:00 解散



「下野杯争奪県下中学生サッカー大会準決勝 主審が筆者」

## 栃木県審判トレセン

S2級審判員 齊藤 清美

月に1回、県審判委員会で開催されているトレーニングセンターに参加させていただいています。内容は競技規則テスト、映像分析、グループディスカッション、プラクティカルトレーニング、フィットネストレーニングなど多岐にわたります。

殆どが社会人で構成されている審判員では選手のように毎日練習というわけにもいかず、ランニングなどの自主トレプラス、サッカー観、審判観を常に意識し現状よりも少しでもより良い状態に置くために、トレセンに参加することは非常に有意義であると思います。ではどのような内容で行われているか少し紹介させていただきます。

～競技規則の過去問から～

問1. 主審に通知することなく、氏名が届けられた競技者に代わって、氏名が届けられた交代要員が先発出場した場合には、どのようにして試合を進めますか。(5項目)

問2. 用具を正すためにフィールドを離れていた競技者が、主審の承認を得ることなくフィールドに入って、ペナルティーエリアの外でハンドを犯し大きなチャンスとなる攻撃を止めた。主審の対応を書きなさい。

(解答は後ほど)

ただ答えるだけではなく、第12条ファウルと不正行為で直接フリーキックになる反則を上げなさいという問題であれば、競技規則の順番通りに。「セーブ」の定義について問われれば、でき得る限り競技規則の文言通りにと指導があります。

なぜその必要性があるのか自分なりに感じていることは、それができるようになるには何回も何十回も競技規則を熟読する必要があること。自分でも驚くことは、開く度に新しい発見と気づきがあることです。そうやって繰り返していくうちに競技規則の歴史や今の形となった経緯、審判員として何を求められているのかがやっと理解できるようになり、本当に自分のものになっていくのではないかと思います。試合では予測不可能なことが本当に起こります。どの条項を当て嵌めてどのように采配、再開するのかその場で判断しなくてはなりません。試合をコントロールするために、毎日欠かさず競技規則を開いているという審判員も少なくありません。

講義では、JFAから配信されている『競技規則スタンダード』のように、反則のシーンの映像を流し、それぞれどのように判定するのか意見を出し合

い、最終的には判断の基準を合わせていくということも行われます。反則として判断する場合のポイント、例えばボールの優先権はどちらにあるのか、ボールをプレーしようとした結果なのか、または、ボールにプレーする機会はなかったのか。あるいはボールに触れていても、その後の勢いや身体の向き、足裏を見せていないかなど、ひとつの行為に対して見る角度や審判員の解釈の仕方、判定が異なってしまう場合があります。審判員同士が競技規則を共通理解したうえで状況に合わせた判定をするために、映像分析も繰り返し学ぶ必要があると思います。

トレセンにはJリーグや国際試合で活躍されている県出身の審判員も参加されています。今現在世界で求められる判定基準についても教えていただく機会があることは、大変貴重な経験です。カテゴリーは違っても、プロも大人も子供も女性も同じフィールドで同じ競技規則で試合をするうえで、同じ基準であることの大切さ、また楽しさも大切にしながら常に感覚を研ぎ澄ましていきたいと思っています。

その他、『審判に必要なもの』についてグループ毎に話し合い、時計や笛などの物質的な物から、走力や瞬発力などの体力的なもの。やり抜く気力や毅然とした態度などの精神的なことまで、時間内にいくつ上げることができるかなどを競うこともあります。

それぞれのオフサイドの判定の正否をビデオを撮って確認することもあれば、試合前の効果的なアップの方法や、ケガをした時の応急処置やテーピングなど、講師に医師をお招きして実技を行うなど、学ぶことが凝縮されていて時間があっという間に過ぎてしまいます。このような場を設けてくださって、県審判員会の指導者の皆様には本当に感謝しております。学んだことを試合で体現していけるよう、今後とも努力していきたいと思っています。

〈解答〉

問1. 競技規則2018/19 P49 を参照してください。

問2. 主審はプレーを停止する。

主審の承認を得ずにフィールドに入ったことで一枚目の警告を示す。

相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止するためにボールを手で扱ったことで2枚目の警告、続いてレッドカードを示し、主審は競技者を退場させる。

妨害があった位置から相手チームの直接フリーキックで再開させる。

以上



「県トレセン風景～ 競技規則テストに挑む参加者」



「県トレセン風景～ 長峯1級審判員によるプレゼン」

## クラブユース審判員として

クラブユース審判員 西海石 誠

サッカー栃木を購読する方はご存知かと思いますが、サッカー競技同様に審判のカテゴリーも1種：社会人～4種：少年、女子、シニアとカテゴリー毎に審判委員会が存在し、その中で私はクラブユース、中学生年代のクラブチームのカテゴリーに所属しています。

クラブユースの審判員は、県内クラブチームで活躍している審判員で構成され、クラブ関連の大会：クラブユース選手権、高円宮杯等、関東大会につながる試合もあり、厳しい戦いを行って、私もそれらの大会で審判を担当し活動をしています。

クラブユースの審判員には、自分ではサッカー経験はないものの、子供のために審判を始める少年サッカー特有の流れで、そのまま活動を続けている少なくなく、私もその1人です。

私も始めた頃は、審判には乗り気ではなく、ただ身体を動かす事は嫌いではなかった為、少しずつ楽しさに目覚め、少年の選手権大会で、今までの審判活動で経験した事のない試合を担当し、もっとこんな試合に携わりたい、また子供が中学進学にあわせク

ラブチームに入った事をきっかけに、3級を目指す事になりました。

2011年の夏に無事3級に昇格し、それから3年後、2014年の夏に3級昇格時にお世話になった指導者の方に声をかけて頂き、更なるステップアップの為、クラブユース審判委員として、新しい活動の場へ進みました。

同時に審判トレセンへの参加、各カテゴリーでの派遣審判の割当てを頂き、様々な活動を経験し2015年の秋に2級昇格のお話を頂きました、まだまだ時期尚早の思いもありましたが、このチャンスを逃したら次はないだろうと、必死に勉強と活動をし、周りの方に支えられ無事2級昇格し、今に至っています。

栃木県の現状として、審判員の不足がありクラブユースも同様です、一緒に試合を担当してくれる審判員が増えていません、3級昇格試験の仕組みが変わった事もあるのかもしれませんが。

もしステップアップを目指す方がいるのであれば、できる限り協力したいと思います、クラブユースそして栃木のサッカーを盛り上げるため、一緒にがんばってみませんか！



「クラブユースの審判仲間と。中央が筆者」

## シニアサッカー界における「風姿花伝書」

シニア審判委員長 青木 均

表題の「風姿花伝書」は、能楽の大成者である世阿弥(ぜあみ)が書いた書物で、演劇や芸術のテキストでもありますが、現在のビジネスリーダーとしての心得や処世術を学ぶ書物としても知られています。教育の世界でも、以前、話題になりました。サッカーの世界において、室町時代の人間(世阿弥)

から何か学ぶところがあるのかと言え、間接的にはなりますが、ライフステージをとらえることや課題を乗り越えること、勝負の波を読むことなどが記されており、サッカーに置き換えて読むと学ぶべきことが多々あると考えています。その中で、「壮年期前期（34～35歳の頃）には、だいたい人間のポジションは決まってくる。」「壮年期後期（44～45歳の頃）には、どんなに頂点を極めた者でも、ようやく衰えが現れる。あまり難しいことはやらず、自分の得意とするものをやるべきだ。」「老年期（50歳以上）は、本当のまことの能役者であるならば、そこに花が残っている。」と書かれています。そして、人生を通して「初心忘るべからず」（この言葉を世阿弥の言葉と知らない人が多いようです…）と言っています。

風姿花伝に言う「年来稽古条々」（年齢に応じた稽古の仕方を示すこと）を、シニアサッカーに当てはめて、審判員や選手の姿勢や心構えはどのように変化し、またどのような特徴が見出せるのか、まとめてみたいと思います。

御存知のとおり、サッカーの審判は1級から4級まであり、自分の力量に応じて、それぞれのカテゴリで審判を行っています。本県におけるシニアの審判は、4級から2級までの資格所有者がリーグ戦やトーナメントを中心に、各チームの「割当て」で行っています。ちなみに、現在、O（オーバー）-40（40歳以上）が17チーム、O-50が12チーム、O-60が5チーム、O-70が1チーム、県に登録して活動しています。

当たり前だと思いますが、試合前は審判員が用具のチェックをし、セレモニーも他のカテゴリと同じように行われます。審判員自らも選手であることが多く、選手として出場した後も素早く着替え、審判服を正しく着用し、自信と誇りを持って試合の進行をします。（以下の画像参照）シニアの試合で使用するグラウンドは、転倒防止(怪我の予防)のためなのか、それとも、委員長の福田治氏や各チームのおかげなのか、人工芝や天然芝で試合が多くでき、選手はスライディングやチャージングも頻繁に行います。選手もそうですが、審判員は、日頃から肉体と精神、頭脳を鍛え、試合では競技規則をできる限り正しく運用し、サッカーの魅力を演出します。そして、判定については、「ダメなものはダメ」と躊躇無くイエローカードやレッドカードを示します。ただ、40歳を過ぎるころから、選手も審判員も、スピードや技術等において、ピーク時の面影は時折見られるものの、衰えが現れます。勝ち負けへの「こだわり」は、むしろ年齢が高くなると強くなる

ようで、細かいファールを見逃すと、ゲームが荒れます。ですから、シニアであれ、審判員は気が抜けません。でも、40、50、60と年齢を重ねるにつれ、選手も審判も、味わいや魅力が現れるように思います。

これからは、「人生100年時代」と言われます。これからのサッカー界は、シニア層が増えると考えられます。そのサッカーを楽しむ要素には「する、みる、支える、知る」があり、多様な関わりの中で、審判員の存在は、ますます大きくなると思います。



【試合の一場面 2019.1.6.撮影】



【筆者は右から2番目】

2019年の11月には、栃木県で全国シニア〇-70関東予選大会が2日間宇都宮市で開催されます。

「プレーヤーの花」を感じる大会であると思います。審判委員会を始め、審判員、大会の運営に携わる方々には、大変お世話になります。

最後になりますが、シニアのサッカーがますます魅力あるものになるよう、「初心」を大切にしていきたいと思っておりますので、応援のほど、よろしくお願いいたします。

## 3級審判インストラクターとして

3級審判員 前川範一

昨年の11月に3級審判インストラクターの資格を取得させて頂きました。

4種では、チームでプレーしている選手の保護者が審判資格を取り、沢山の方々がチームの帯同審判員として活動しております。また、4種では年に数回、帯同審判員を対象に実技研修会や講習会等を行い、審判員のレベルアップや競技規則の理解を深めるための指導を各地区で行っています。ですが、知識・技術・体力等が十分ではない審判員が多く見られるのが4種の現状だと思います。

そんな4種では、審判員のレベルアップ・スキルアップはもちろんの事、3級審判員の増員や他のカテゴリーでも通用する審判員の育成が課題かと思われます。その課題を解決するために、4種として各地区に1名以上の審判インストラクターを配置することとなりました。その話をいただいた時に、地区の審判員はもちろんの事、自身のレベルやスキルアップのために、是非参加したいと思い、講習会に参加させて頂きました。

また、12月にはJFAレフェリーキャラバンに4種から参加させて頂き多くの事を学ばせて頂きました。取得したばかりでまだまだ勉強不足ですが、今後も多くの講習会やイントレなどに積極的に参加し、4種高瀬審判委員長を柱に、各地区の審判委員長・インストラクター・審判員の方々と協力していきたいと考えています。また、審判員同士で情報を共有し、4種で審判活動をしている方々にサッカーの魅力や審判の魅力・面白さを伝えられる様に、また一人でも多くの方に審判を長く続けてもらい、更に上級を目指して、結果的に他のカテゴリーでも活躍できるような審判員の育成を目指して活動していきたいと考えています。そのために、自分自身が審判の活動を楽しむことと、常に学ぶ姿勢を忘れずに行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



「2019年 SI3級インストラクター更新・新規講習会」

## 栃木県開催の第45回JFA レフェリーキャラバンに参加して

県審判委員会 総務部 黒澤幸樹

レフェリーキャラバンとはJFAが2015年より実施している事業で、JFA審判委員会や審判ダイレクターが各都道府県に出向き、現状の課題や今後の方向性などについて各地域の審判員や審判インストラクターと情報交換し、審判員の普及・育成・指導体制を更に強化していくことを目的とした研修会です。

栃木県では昨年12月15日、16日の2日間、高橋武良インストラクター（関東レフェリーデベロップメントオフィサー）と斉藤仁インストラクター（関東地域審判指導者トレセンマネジャー）を招き、作新学院大学で開催しました。2日間で延べ約100人の審判員やサッカー関係者が参加しました。

初日の午前中の「チームビルディング」のセッションでは、栃木県サッカー協会の糸井朗専務理事をはじめ各種別の委員長や各部長、現役の審判員が集まり、栃木県の「強み」と「弱み」を洗い出し、「できること」から「できないこと」までを整理しました。さらに栃木県のサッカーや審判のレベルをより高めるために、審判をはじめとしたサッカー関



「栃木県サッカー界の強みとは？弱みとは？」  
についてブレインストーミングする参加者

係者がどのように関わっていくのが良いかを議論しました。3年後に控えた国体開催も意識した幅広い討議が行われ、「サッカーを強くする・拡大させる」ために何ができるかを、審判の視点から考えるプログラムとなりました。

午後は「レフェリーアナリシス」のセッションで、分析の手法紹介の後、4グループに分かれて演習を行いました。また翌日の「プラクティカルトレーニング」の実践に向けてのテーマをグループごとに決め、セッションプランニングシートに基づいた指導案を作成しました。



「プラクティカルトレーニング」の計画作成

2日目午前中は、前日にグループごとに作成した指導案をもとに、宇都宮青陵高校サッカー部員にデモンストレーターとしてご協力いただき、実践形式のプラクティカルトレーニングを実施しました。各グループとも熱心な指導を行い、寒さも吹き飛ばぶくらいの活気ある有意義な時間となりました。



「プラクティカルトレーニング」の一コマ

さらに午後は、「チューターリング」の実践と進め方を学び、最後に「レフェリーコーチング」とはどのようなものなのかを学習して、栃木県開催のレフェリーキャラバンは終了しました。

私は今回のキャラバンの運営担当として、事前準備から本番まで関わらせていただきましたが、会場を提供して下さった作新学院大学をはじめ多くの関係者の皆さまのご協力がなければ開催することはできませんでした。改めて心より感謝申し上げます。今後も栃木県では関東社会人サッカー大会（2019年開催）や全国社会人サッカー選手権大会（2021年開催）、第77回国民体育大会（2022年開催）と大きなイベントが続きますが、県の審判委員会をはじめ県内のサッカー関係者全員で一致団結して取り組んでいけるよう、微力ですが全力を尽くすつもりです。



「プラクティカルトレーニング」で齊藤仁インストラクターからアドバイスを受ける

最後に今回の栃木県開催のレフェリーキャラバンの参加者の1人で3級インストラクターの齊藤清美氏の声を紹介させていただきます。

思考、発言、グループディスカッション、発表、振り返り。常に頭をフル回転させ、非常に充実した二日間でした。その中でも特に「人に伝えることの難しさ」を考えさせられました。

「答えは指導を受ける側がすべて持っている」初めはピンときませんでした。指導者はあまりしゃべらずに、審判員に自分で考えられるよう仕向ける。自分で導き出した答えはずっと覚えているし定着しやすい。次の試合で表現できるようになるための指導が求められているとのことでした。

プラクティカルトレーニング時に審判員が失敗して迷ったとき、見解を求められましたが、その場では応えることができずうやむやにしまいました。「モヤモヤを解消させるための誘導をしてあげてください。」とご指導いただきましたが、まず自分の情報量が足りないことを思い知らされました。競技規則を人に伝えられる程は未だ理解していないことが分かりました。プラクティカルメニューの目的と狙いを設定し、予想されるエラーと改善すべき

ポイントをチームで話し合いましたが、想定外のことが起きた時に問われるのが個人の人間力だと感じました。普段から県トレセンや関東での研修に参加させていただいていますが、指導者の方々がどれだけの時間をかけて準備してくださっているかを思い、改めて感謝するとともに、自分もそのような指導者を目指して努力していかなければならないと強く思いました。

最後にこのような学びの場を提供して下さったJFAの指導者並びにスタッフの皆様、栃木県サッカー協会に感謝申し上げます。

## 技術委員会

### ゴールキーパープロジェクトについて

栃木県ゴールキーパープロジェクトチーフ  
細井 暁

栃木県ゴールキーパープロジェクトでは、2～4種年代のゴールキーパーの育成、指導者の指導力の向上を目的として活動しています。

主な活動内容は、どの選手でも参加できるU13～U16年代を対象にGKクリニックの開催（各カテゴリー年8回）、県トレセンに選ばれている選手を対象としたGKトレセンの開催（年間5回）をしています。その他にも地区トレセンでの指導者講習会への講師の派遣を行っています。

GKトレセンで選考された各カテゴリー2名ずつの選手が関東GKキャンプU13、U14へ参加しています。指導者も2名参加して指導スタッフとしてトレーニングを行っています。指導者の指導力向上に向けては、GK指導者ライセンスの取得を進めています。また、GK指導者ライセンスのある指導者がGKコーチとして、県トレセンの各カテゴリーで指導にあたる体制作りを進めています。

2016年度GKA級1名、GKB級10名、GKC級18名という状況から2022年度までの目標値をGKA級3名、GKB級15名、GKC級30名とGKプロジェクト指導者養成アクションプランを設定しました。それから2年が経ち、2018年度現在では、GKA級3名、GKB級12名、GKC級24名と着実に増加しています。目標を達成することだけでなく、指導者としての活動の場を通して指導力向上につなげることができるように活動しています。

栃木SC楠本晃義サブアカデミーダイレクターにアドバイザーとして関わっていただきながら、選手育成だけでなく、指導者養成についても御助言御指

導をしていただいています。

チームにGKを専門的に指導できる指導者が少ない状況で、『GKについてどう指導したら良いかわからない。』とご相談いただくことがあります。

ぜひ、GKプロジェクトの活動に指導者の方々も参加していただき、選手にとってより良いトレーニング環境を作るために御協力よろしくお願ひします。



奥澤 直人

円印刷株式会社

宇都宮大学サッカー部OB会

FCグランディール宇都宮

石崎 洋子

NPO法人たかはら那須スポーツクラブ

SAKURA FOOTBALL CLUB

石川 茂治

安達 賢二

ユー福祉タクシー

飯山 勝一

猪瀬 和人



人と自然が調和した街づくり目指す

## 鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857  
 宇都宮市鶴田2丁目2番10号  
 TEL 028-648-6241(代)  
 FAX 028-648-8318  
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー  
**ミズノ株式会社**

- 発行 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 編集 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 発行責任者 星野務
- 印刷所 円印刷株式会社